

## 分担課題:本邦における不育症のリスク因子とその予後に関する研究

研究代表者	齋藤 滋	富山大学産科婦人科学教授
研究分担者	田中忠夫	東京慈恵会医科大学産科婦人科学教授
	藤井知行	東京大学産科婦人科学准教授
	中塚幹也	岡山大学大学院保健学研究科教授
	丸山哲夫	慶應義塾大学産婦人科専任講師
	竹下俊行	日本医科大学産科婦人科学教授
	杉 俊隆	東海大学医学部産婦人科非常勤教授
	山本樹生	日本大学産婦人科学教授
	藤井俊策	むつ総合病院産科婦人科産科部長
	福井淳史	弘前大学産科婦人科学助教
	小澤伸晃	国立成育医療研究センター周産期診療部医長
	高桑好一	新潟大学医歯学総合病院周産母子センター教授
	山田秀人	神戸大学大学院医学研究科教授
	木村 正	大阪大学大学院医学系研究科産婦人科教授

### 研究要旨

これまで 2494 組の不育症の登録があった。その中で、子宮奇形、甲状腺機能、夫婦の染色体、抗リン脂質抗体スクリーニング( $\beta_2$ GPI 依存性抗 CL 抗体、抗 CL IgG 抗体、抗 CL IgM 抗体、Lupus anticoagulant(LA))、第 XII 因子、Protein S、Protein C を全て検査している症例が 527 例あった。その結果、子宮形態異常 7.8%、甲状腺機能異常(亢進、低下)6.8%、染色体異常 4.6%、抗リン脂質抗体陽性 10.2%、第 XII 因子欠乏 7.2%、Protein C 欠乏 0.2%、Protein S 欠乏 7.4%であった。種々のリスク因子を重複している例が 43 例(8.2%)あり、その病態は複雑であった。原因不明が 65.3%あったが原因不明の中で、PE 抗体陽性者が 22.6%含まれていた。既往流産回数の平均が 2.8 回であり、流産の約 80%に胎児染色体異常を認めるため原因不明のうち約 50%は胎児染色体異常となる。そのため約 15%のリスク因子が未同定ということになるが、胎児染色体異常を認めない流産の約 70%にリスク因子が同定できるとも言える。なお PE 抗体陽性は他のリスク因子と重複しているものをあわせると 34.3%であった。既往流産回数が 6 回以上となると生児獲得率が極端に低くなった。また、諸検査がすべて正常(PE 抗体も陰性)な場合、次回妊娠での成功率は 72.3%(136/188)と良好であった。次に治療群と無治療群で妊娠成功率を検討すると、子宮形態異常、甲状腺機能異常、妊娠 10 週までの流産既往のある Protein S 欠乏症、抗 PE 抗体陽性例では、治療群の方が無治療群より有意に成績が良かった。さらに既往流産回数が 2 回の場合、リスク因子の有無にかかわらずカウンセリングは妊娠予後を良好にした。

## A. 研究目的

本邦における不育症の実態は明らかでなく、諸外国においても日本のように妊娠初期から医療機関を受診することがないために正確な不育症の実態は得ることができない。従って日本における初期流産をも含めた不育症のリスク因子頻度、治療成績は高い信頼性を持つ。これまでの調査では必ずしも全例にすべての検査が行なわれておらず、不十分な結果となっている。そこで研究班員により、不育症例に必須項目、選択項目検査を行ない信頼性の高い不育症のリスク因子を同定することを目的とした。

## B. 研究方法

2007年から2010年に不育症のため本研究班の施設を受診した2494組に精査を行なった。必須項目として夫婦の染色体検査(夫婦の同意が得られなければ行なわない)、子宮卵管造影、抗リン脂質抗体( $\beta_2$ GPI 依存性抗ガルジオリピン(CL)抗体、抗 CL IgG 抗体、Lupus anticoagulant(LA))、XII 因子、Protein C、甲状腺機能検査(fT4、TSH)を行なった。選択項目として抗 CL IgM 抗体、抗 PE IgG 抗体、抗 PE IgM 抗体、Protein S、NK 活性を検査した。なお cut off 値として  $\beta_2$ GPI 依存性抗 CL 抗体は 1.8、抗 CL IgG は 10、抗 CL IgM は 8、LA は 1.3、抗 PE IgG は 0.3、抗 PE IgM は 0.45、第 XII 因子は 50%、Protein S、Protein C は 60%、NK 活性は 40%とした。

## C. 研究結果

### I. 不育症リスク因子

平成 20 年度に 538 組、平成 21 年度に 892 組、平成 22 年度に 1064 組総計 2494 組の登録があった。子宮卵管造影は 1454 例に施行、甲状腺検査は 1930 例に施行、染色体検査は 1067 例、抗リン脂質抗体は 2237 例、第 XII 因子は 1988 例、プロテイン S 検査 1845 例、プロテイン C 検査 985 例、抗 PE IgG、IgM 検査 1946 例に施行されていた。必須項目の中で夫婦の同意が得られないため約半数の症例で染色体検査が行なわれていなかった。夫婦染色体検査はハードルの高い検査であることが判った。その他、経膈超音波法で子宮形態を確認したため、子宮卵管造影を省略された症例、選択項目のため抗 CL IgM 抗体、抗 PE IgG 抗体、抗 PE IgM 抗体、Protein S 測定は一部の症例にしか行なわれていなかった。データの正確を期すため、子宮卵管

造影、甲状腺検査、夫婦染色体検査、抗リン脂質抗体スクリーニング、第 XII 因子、Protein S、Protein C 定量をすべて検査している 527 例を抽出し、不育症のリスク因子を解析した。なお、現在のところ抗リン脂質抗体の1つである抗 PE 抗体については、流産との明確な関連性は十分には証明されていないため抗 PE 抗体陽性者は原因不明の中に含めた。

図 1 に示すように子宮形態異常 7.8%、甲状腺機能異常 6.8%、夫婦どちらかの染色体異常 4.6%、抗リン脂質抗体異常 10.2%、第 XII 因子欠乏 7.2%、Protein C 欠乏 0.2%、Protein S 欠乏 7.4%、原因不明 65.3%であった。原因不明の中に 22.6%に PE 抗体陽性者が含まれていた。なお PE 陽性者は他のリスク因子と重複するものを合計すると 34.3%にも及んだ。CGH アレイ法を含めると流産絨毛の 80%に染色体異常を認めているため、既往平均流産回数が 2.8 回の本症例群では原因不明(胎児染色体異常をたまたま 3 回繰り返した例)が計算上 51.2%となり、今回の原因不明 65.3%はさほど違和感を持つものではない。新しい検査法が開発されれば、あと 14%程度にリスク因子が発見されるのかもしれない。また不育症例のリスク因子は単一ではなく表 1 に示すように種々の因子が重複することも判った。

### II. 流産回数別からみた妊娠成功率(生児獲得率)

表 2 に示すように、既往流産回数が 3 回までは治療成績が極めて良好であった。既往流産回数が 4 回、5 回では若干、成功率が低下するが、6 回以上の流産既往を持つ患者ではその成績が十分とは言えず、更なる治療法の改善が必要であろうと考えられた。そこで、6 回以上の流産の既往を持つ症例でガンマグロブリン療法が班員の山田秀人医師のもとで企画された(分担研究報告書参照)。

### III. 不育症リスク因子別にみた妊娠成功率(生児獲得率)

表 3 に示すように子宮形態異常、甲状腺機能異常、染色体異常、抗リン脂質抗体陽性、Protein S 欠乏、XII 因子欠乏、Protein C 欠乏を認めないものを原因不明としたが、これらの症例における妊娠成功率は比較的良好であった。また PE 抗体のみ陽性例でも何らかの治療を行えば妊娠成功率は高いことが判明した。一方、NK 活性高値例では何らかの治療を行なっているものの妊娠成功率はやや低値であった。なお染色体異常例に対してはカウンセリング療法のみを行なっているが、妊娠成功率は 50%であった。

#### IV. 各治療法毎の治療成績

表4に示す如く、アスピリン療法(Asp)もしくはヘパリン+アスピリン療法(Hep+Asp)が多数例に施行されていた。両群における治療成績は良好であった。一方、ステロイド+アスピリン+ヘパリン(ST+Asp+Hep)療法は、その治療成績はやや低下していたが、既往流産回数が $3.6 \pm 2.1$ 回とAsp群、Hep+Asp群と比し高値となっていた。すなわち、Asp、Hep+Aspでも不成功になったため、止むを得ずST+Asp+Hepとなった、もしくは自己免疫疾患を合併しておりST+Asp+Hep療法になったことが示唆されるが、このような症例に対しての新たな治療法の開発が望まれる。また、明らかなリスク因子が見つからなかった際にカウンセリング療法がおこなわれるが、その後の妊娠で良好な妊娠成功率が得られていた(表5)。特に既往流産回数が2回の場合、カウンセリングを行なった方が無治療よりリスクがあった際も、リスクが無い原因不明であっても妊娠成功率は無治療群に比し有意に高いことが判明した(表5)。すなわちカウンセリングには明らかな不育症に対する治療効果があることが判明した。一方、無治療群では、リスク因子がなかった異常なし群では57.4%の妊娠成功率であったが、何らかの要因がある際の妊娠成功率は25.5%と極めて不良であった(表4)。すなわちリスクがある症例に治療をしなければ妊娠成功率は低いということになる。

表6に各種リスク因子別に治療群と無治療群での成功率を示した。いずれも無治療群の症例数が少ないのが問題ではあるが、子宮形態異常では治療群の方が成功率が高かった。現在、班員での共同研究を開始し中隔、双角子宮で手術療法が有効か否かの前方視的研究を行なっている。その結果、中隔子宮では手術をした方が無治療群に比し次回妊娠成功率が高い(81.3% vs 53.8%)ことが判明した(分担研究者杉浦真弓氏の報告を参照)。甲状腺機能異常では明らかに無治療群での成績が悪いことが明らかとなった。これまで過去に妊娠10週以降の流産・死産の既往のあるProtein S欠乏症に対してはHep+Asp療法の方がAsp療法より予後が良いとの報告があった。しかし妊娠10週未満の流産既往のあるProtein S欠乏症に対しての治療の必要性については結論が出ていなかった。今回の成績からはこれらの症例における無治療群の妊娠成功率は15.0%と極めて低値であった。一方、Asp療法、Hep+Asp療法では成功率がそれぞれ

71.4%、76.9%と良好であった。従ってAsp療法もしくはHep+Asp療法をProtein S欠乏症で行なう方が良いことが示唆された。従って少なくともProtein S欠乏症を伴う不育症例ではアスピリン療法は行なった方が良いかもしれない。PE抗体と流産との関連は十分には解明されていないが、無治療群に比べて治療群で有意に妊娠成功率が高かった。しかし無治療群の症例数が少ないため今後症例数を増加させる必要がある。現在、PE抗体陽性者に対する無治療群を集積中である。

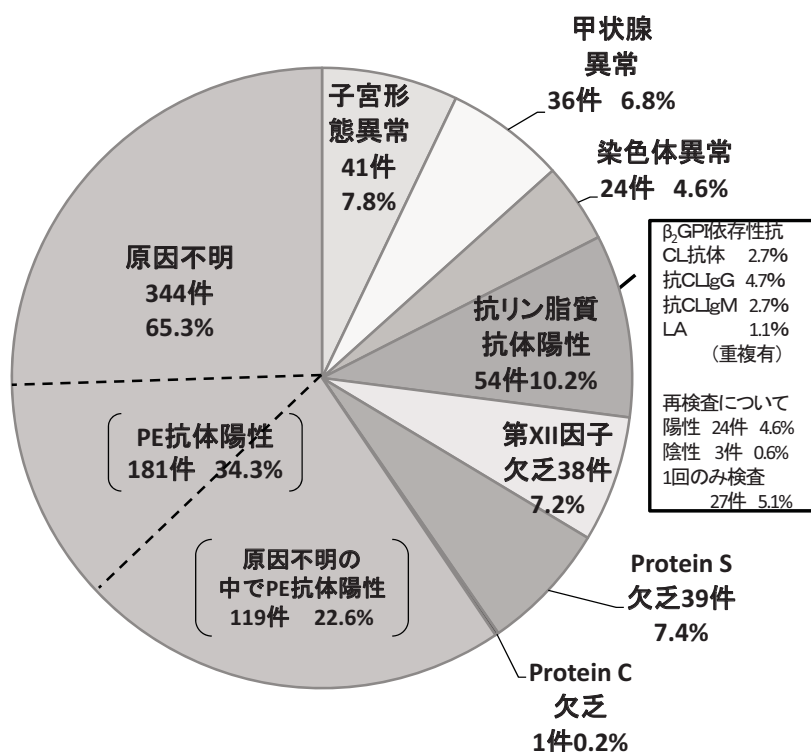
#### D. 考察・E. 結論

日本人における不育症のリスク因子が今回明らかとなった。前年度の成績は必ずしも全例にすべての検査が行なわれているわけではなく、今回の結果はより正確なデータとなった。Protein S測定は妊娠10週以降の流産・死産の既往のある症例に測定することを勧めていたが、妊娠10週未満の流産既往のある場合にも積極的に精査しても良いかもしれない。また日本人には欧米人と比べProtein S欠乏症の頻度が高いことも知られている。そのため不育症の際に測定しておくべき検査の一つかもしれない。なぜならば、Protein S欠乏症では無治療であると3/20(15.0%)と妊娠成功率が極めて低いからである。治療法でみるとAsp群でもHep+Asp群でも治療成績に差がなかったため、まずはAsp療法を試みても良いかもしれない。抗PE抗体は不育症例で高頻度に検出されることはこれまで明らかにされてきたが、抗PE抗体陽性例に治療をした方が予後を改善するか否かについては結論が得られていなかった。今回、無治療群の症例数は少ないものの、治療群で妊娠成功率が高率となった。しかし、班員のSugiuraらは抗PE抗体以外諸検査を行ない原因不明であったため無治療をした症例の保有血清を用いて抗PE抗体を測定したところ、抗PE抗体陽性と陰性に関しては、妊娠予後に差がなかったと報告している。今後、無治療群を増加させて抗PE抗体陽性例における治療の必要性につき再検討している必要がある。また2回までの既往流産歴の際はカウンセリングが極めて有効な治療効果をもつことが明らかとなった。今後カウンセリングを積極的に進めていく必要がある。これらのデータは不育症のホームページ(Fuiku Labo <http://fuiku.jp>)に掲載し一般の不育症患者に提供している。

# 図1. 不育症のリスク別頻度

## 不育症のリスク因子

1. 子宮形態異常
2. 甲状腺異常
3. 染色体異常
4. 抗リン脂質抗体陽性
5. 第XII因子欠乏
6. ProteinS欠乏
7. ProteinC欠乏
8. 原因不明



n=527 (年齢34.3±4.8歳、既往流産回数2.8±1.4回、重複有43件)

# 表1. 不育症のリスク別頻度の重複一覧

重複内容	重複件数
子宮形態異常, 甲状腺異常, 染色体異常	1
子宮形態異常, 甲状腺異常	4
子宮形態異常, 染色体異常, ProteinS欠乏	1
子宮形態異常, 染色体異常	1
子宮形態異常, 抗リン脂質抗体陽性	3
子宮形態異常, 第XII因子欠乏	1
子宮形態異常, ProteinS欠乏	3
甲状腺異常, 抗リン脂質抗体陽性, 第XII因子欠乏, ProteinS欠乏	1
甲状腺異常, 抗リン脂質抗体陽性, 第XII因子欠乏	1
甲状腺異常, 抗リン脂質抗体陽性	3
甲状腺異常, 第XII因子欠乏	2
甲状腺異常, ProteinS欠乏	5
染色体異常, 抗リン脂質抗体陽性	1
抗リン脂質抗体陽性, 第XII因子欠乏	6
抗リン脂質抗体陽性, 第XII因子欠乏, ProteinS欠乏	2
抗リン脂質抗体陽性, ProteinS欠乏	4
第XII因子欠乏, ProteinS欠乏	3
ProteinC欠乏, ProteinS欠乏	1
<b>合計</b>	<b>43</b>

表2. 流産回数別次回妊娠成功率

治療法	妊娠数	成功率	染色体異常を除いた成功率
2回	447	324/447(72.4%)	324/405(80.0%)
3回	326	239/326(73.3%)	239/296(80.7%)
4回	106	65/106(61.3%)	65/100(65.0%)
5回	38	20/38(52.6%)	20/34(58.8%)
6回	22	5/22(22.7%)	5/17(29.4%)
7回	13	6/13(46.2%)	6/11(54.5%)
8回	3	1/3(33.3%)	1/3(33.3%)
9回	3	1/3(33.3%)	1/3(33.3%)
11回	2	0/2(0.0%)	0/2(0.0%)
14回	2	0/2(0.0%)	0/2(0.0%)
計	962	661/962(68.7%)	661/873(75.7%)

P<0.0001

表3. 不育症リスク因子別頻度と妊娠成功率

リスク因子	頻度*	妊娠成功率	染色体異常を除いた成功率
子宮形態異常	127/1454(8.7%)	34/54(63.0%)	34/47(72.3%)
甲状腺異常	122/1930(6.3%)	49/78(62.8%)	49/70(70.0%)
染色体異常	61/1067(5.7%)	16/31(51.6%)	16/25(64.0%)
抗リン脂質抗体陽性	245/2237(11.0%) 再検査陽性 121/2237(5.4%) 再検査陰性 11/2237(0.5%)	91/129(70.5%) 再検査陽性38/47(80.9%) 再検査陰性 8/8(100%)	91/118(77.1%) 再検査陽性38/44(86.4%) 再検査陰性 8/8(100%)
第XII因子欠乏	160/1988(8.0%)	52/70(74.3%)	52/62(83.9%)
Protein S欠乏	176/1845(9.5%)	101/146(69.2%)	101/131(75.9%)
原因不明**	344/527(65.3%)	136/188(72.3%)	136/174(78.2%)
PE(-)原因不明	225/344(65.4%)	79/108(72.3%)	79/103(76.7%)
PE(+)原因不明	119/344(34.6%)	57/80(70.9%)	57/71(80.3%)
PEIgG or PEIgMのみ陽性	665/1946(35.0%)	254/359(70.8%)	254/332(76.5%)
NK活性陽性	215/747(28.8%)	30/61(49.2%)	30/49(61.2%)

\* 各検査を施行している症例数毎のリスク頻度を示しているため分母の症例数が各項目で異なる

\*\* 原因不明は上記6項目をすべて検査し、いずれも陰性であった症例をもとに頻度を計算した

表4. 治療法別の治療成績

治療法(年齢、流産回数)	妊娠数	治療成績 (妊娠成功率)	染色体異常を除いた妊娠成功率
Asp(34.0±4.3歳、2.6±1.4回)	325	226/325(69.5%)	226/295(76.6%)
Hep+Asp(34.3±4.5歳、2.9±1.4回)	357	274/357(76.8%)	274/337(81.3%)
Hep+Asp+ST(34.3±4.3歳、3.6±2.1回) <sup>1)</sup>	34	18/34(52.9%)	18/28(64.3%)
Asp+ST(35.1±4.5歳、2.3±0.9回)	61	51/61(83.6%)	51/58(87.9%)
カウンセリング(35.4±4.1歳、2.5±0.8回)	95	68/95(71.6%)	68/83(81.9%)
リスク有症例	26	14/26(53.8%)	14/21(66.7%)
リスク無症例	69	54/69(78.3%)	54/62(87.1%)
無治療(33.6±5.1歳、2.5±1.2回)	105	44/105(41.9%)	44/91(48.4%)
リスク有症例	51	13/51(25.5%)	13/42(31.0%)
リスク無症例	54	31/54(57.4%)	31/49(63.3%)
計	977	681/977(69.7%)	681/892(76.3%)

無治療群105例のリスク因子別妊娠成功率

染色体異常を除いた妊娠成功率

1)他の5群と比し有意(P<0.0001)に流産回数が多い

子宮形態異常	0/4(0%)	0/3(0%)	* P<0.05
甲状腺異常	3/12(25.0%)	3/9(33.3%)	** P<0.01
染色体異常	2/5(40.0%)	2/4(50.0%)	
抗リン脂質抗体陽性	1/4(25.0%)	1/4(25.0%)	
第XII因子欠乏	1/1(100.0%)	1/1(100.0%)	
Protein S欠乏	3/20(15.0%)	3/15(20.0%)	
PE抗体陽性	5/16(31.3%)	5/15(33.3%)	
異常なし	31/54(57.4%)	31/49(63.3%)	
全体	44/105(41.9%)	44/91(48.4%)	

表5. 回数別治療成績

治療法	2回		3回		4回以上	
	治療成績 (妊娠成功率)	染色体異常を除いた妊娠成功率	治療成績 (妊娠成功率)	染色体異常を除いた妊娠成功率	治療成績 (妊娠成功率)	染色体異常を除いた妊娠成功率
ASP	98/142 (69.0%)	98/124 (79.0%)	73/98 (74.5%)	73/90 (81.1%)	26/49 (53.1%)	26/47 (55.3%)
Hep+Asp	108/128 (84.4%)	108/123 (87.8%)	89/114 (78.1%)	89/103 (86.4%)	53/87 (60.9%)	53/83 (63.9%)
Hep+Asp+ST	3/3 (100%)	3/3 (100%)	3/6 (50.0%)	3/5 (60.0%)	6/18 (33.3%)	6/13 (46.2%)
Asp+ST	30/35 (85.7%)	30/34 (88.2%)	17/18 (94.4%)	17/17 (100%)	0/3 (0%)	0/3 (0%)
カウンセリング	41/54 (75.9%)	41/46 (89.1%)	22/32 (68.8%)	22/29 (75.9%)	5/8 (62.5%)	5/7 (71.4%)
リスク有	6/11 (54.5%)	6/8 (75.0%)	5/11 (45.5%)	5/9 (55.6%)	3/4 (75.0%)	3/4 (75.0%)
リスク無 <sup>1)</sup>	35/43 (81.4%)	35/38 (92.1%)*	17/21 (81.0%)	17/20 (85.0%)	2/4 (50.0%)	2/3 (66.7%)
無治療	19/48 (39.6%)	19/40 (47.5%)	17/31 (54.8%)	17/28 (60.7%)	3/13 (23.1%)	3/10 (30.0%)
リスク有	3/18 (16.7%)*	3/14 (21.4%)	6/15 (40.0%)	6/12 (50.0%)	1/8 (12.5%)	1/6 (16.7%)
リスク無 <sup>1)</sup>	16/30 (53.3%)	16/26 (61.5%)	11/16 (68.8%)	11/16 (68.8%)	2/5 (40.0%)	2/4 (50.0%)

1) 不育症スクリーニング(子宮形態異常、甲状腺異常、染色体異常、抗リン脂質抗体陽性、第XII因子欠乏、Protein S欠乏、Protein C欠乏、PE抗体陽性)をしても何らかの異常を認めなかった症例 \* P<0.05 \*\* P<0.01

表6. 治療群と無治療群の比較

不育症関連因子		治療群の成功率		無治療群の成功率	有意差
子宮形態異常		34/50(68.0%) (33.3±4.4歳、3.5±2.0回)		0/4(0%) (30.5±1.9歳、5±2.3回)	0.02986
甲状腺異常		46/66(69.7%) (33.5±3.8歳、2.8±1.3回)		3/12(25.0%) (32.9±3.3歳、3.1±1.8回)	0.00873
抗リン脂質抗体陽性		90/125(72.0%) (33.8±4.4歳、2.6±1.4回)		1/4(25.0%)	0.13728
第XII因子 欠乏	【50%未満】	51/69(73.9%) (34.0±4.0歳、2.7±1.5回)	Asp群 : 28/35(80.0%) Asp+Hep群 : 11/15(73.3%)	1/1(100.0%)	0.5757
	【60%未満】	122/172(70.9%) (33.9±4.4歳、2.7±1.4回)	Asp群 : 60/84(71.4%) Asp+Hep群 : 37/49(75.5%)	6/10(60.0%) (32.2±5.2歳、2.3±1.4回)	0.7043
Protein S 欠乏	【全体】	98/126(77.8%) (33.5±4.4歳、2.6±1.6回)		3/20(15.0%) (31.3±4.8歳、2.6±1.6回)	<0.0001
	【10wまでの 流産のみ】	73/98(74.5%)	Asp群 : 25/35(71.4%) Asp+Hep群 : 40/52(76.9%)	2/19(10.5%)	<0.0001
	【10w以降の 流産】	11/14(78.6%)	Asp群 : 3/4(75.0%) Asp+Hep群 : 6/7(85.7%)	1/1(100.0%)	0.43756
	【抗リン脂質 抗体陽性合併】	15/17(88.2%)	Asp群 : 2/4(50.0%) Asp+Hep群 : 10/10(100%)	0	
P E 抗体 陽性	【全体】	249/343(72.6%) (34.1±4.3歳、2.7±1.3回)	Asp群 : 53/89(59.6%) Asp+Hep群 : 141/178(79.2%)	5/16(31.3%) (34.6±5.9歳、2.3±1.1回)	0.00107
	第XII因子 50%未満合併	16/21(76.2%)	Asp群 : 2/4(50.0%) Asp+Hep群 : 6/8(75.0%)	0	
	第XII因子 60%未満合併	37/52(71.2%)	Asp群 : 8/14(57.1%) Asp+Hep群 : 14/20(70.0%)	0/1	0.06307

F. 健康危険情報  
特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

【2008年】

- 1) Sugiura-Ogasawara M., Aoki K., Fujii T., Fujita T., Kawaguchi R., Maruyama T., Ozawa N., Sugi T., Takehita T., Saito S.: Subsequent pregnancy outcomes in recurrent miscarriage patients with a paternal or maternal carrier of a structural chromosome rearrangement. *J Hum Genet.* 53(7):622-628, 2008.
- 2) Nakashima A., Shiozaki A., Myojo S., Ito M., Tatematsu M., Sakai M., Takamori Y., Ogawa K., Nagata K., Saito S.: Granulysin produced by uterine natural killer cell induces apoptosis of extravillous trophoblast in spontaneous abortion. *Am J Pathol.* 173(3):653-664, 2008.
- 3) Lin Y., Zhong Y., Shen W., Chen Y., Shi J., Di J., Zeng S., Saito S.: TSLP-induced placental DC activation and IL-10+ NK cell expansion: Comparative study based on BALB/cx C57BL/6 and NOD/SCID X C57 BL/6 pregnant models. *Clin Immunol* 126:104-117, 2008.
- 4) Saito S., Nakashima A., Myojo-Higuma S., Shiozaki A.: The balance between cytotoxic NK cells and regulatory NK cells in human pregnancy. *J Reprod Immunol* 77(1):14-22, 2008
- 5) Kawaguchi R., Tanaka T., et al. Priming of peripheral monocytes with prolactin sensitizes IFN-gamma-mediated indoleamine 2,3-dioxygenase expression without affecting IFN-gamma signaling. *J Reprod Immunol* 77 : 117-125, 2008.
- 6) Itoh H, Tanaka T., et al. A case-control study of the association between urinary cadmium concentration and endometriosis in infertile Japanese women. *Science of the Total Environment* 2008;402:171-175.
- 7) Hao L.,Noguchi S.,Kamada Y., Sasaki A.,Adachi M.,Shimizu K.,Hiramatsua Y.,and Nakatsuka M.: Adverse Effects of Advanced Glycation End Products on Embryonal Development. *Acta.Medica.Okayama.*62(2):93-99,2008.
- 8) Emi Y.,Adachi M.,Sasaki A.,Nakamura Y.,Nakatsuka M.:Increased arterial stiffness in female-to-male transsexuals treated with androgen. *J.Obstet.Gynaecol.Res.*34(5):890-897, 2008
- 9) Ueda N.,Kushi N.,Nakatsuka M.,Ogawa T., Nakanishi Y.,Shishido K.,Awaya T.: Study of Views on Posthumous Reproduction, Focusing on its Relation with Views on Family and Religion in Modern Japan.*Acta.Medica.Okayama* 62(5):285-296,2008.
- 10) Goto Y.,Nakatsuka M.,Okuda H.:Effects of aging on heart rate variability and its relationship to psychosomatic complaints in women.*Journal of the Japan Society of Neurovegetative Research.*45(6):1-9,2008
- 11) Maruyama T., Yoshimura Y: Molecular and cellular mechanisms for differentiation and regeneration in the uterine endometrium. *Endocrine Journal.* 2008; 55(5), 795-810
- 12) Nagashima T, Maruyama T., Uchida H, Kajitani T, Arase T, Ono M, Oda H, Kagami M, Masuda H, Nishikawa S, Asada H, Yoshimura Y: Activation of SRC kinase and phosphorylation of STAT5 are required for decidual transformation of human endometrial stromal cells. *Endocrinology.* 2008; 149(3), 1227-1234
- 13) Ohta K, Maruyama T., Uchida H, Ono M, Nagashima T, Arase T, Kajitani T, Oda H, Morita M, Yoshimura Y: Glycodelin blocks progression to S phase and inhibits cell growth: a possible progesterone-induced regulator for endometrial epithelial cell growth. *Molecular Human Reproduction.* 2008; 14(1) 17-22
- 14) Ozawa N\*, Maruyama T., Nagashima T, Ono M, Arase T, Ishimoto H, Yoshimura Y: Pregnancy outcomes of reciprocal translocation carriers who have a history of repeated pregnancy loss. *Fertil Steril.* 2008; 90(4) 1301-1304
- 15) Sugiura-Ogasawara M, Aoki K, Fujii T, Fujita T, Kawaguchi R, Maruyama T, Ozawa N, Sugi T, Takehita T., Saito S.: Subsequent pregnancy outcomes in recurrent miscarriage patients with a paternal or maternal carrier of a structural chromosome rearrangement. *J Hum Genet.* 2008;53(7):622-8. Epub 2008 Apr 15.
- 16) Akira S, Negishi Y, Abe T, Ichikawa M, Takehita



- T.: Prophylactic intratubal injection of methotrexate after linear salpingostomy for prevention of persistent ectopic pregnancy. *J Obstet Gynaecol Res*. 2008;34(5):885-9.
- 17) Matsubayashi H, Sugi T, Uchida N, Suzuki T, Izumi S-I, Mikami M. Decreased factor XII activity is associated with recurrent IVF-ET failure. *Am J Reprod Immunol*; 59: 316-322, 2008.
  - 18) Inomo A, Sugi T, Fujita Y, Matsubayashi H, Izumi S-I, Mikami M. The antigenic binding sites of autoantibodies to factor XII in patients with recurrent pregnancy losses. *Thromb Haemost*; 99: 316-323, 2008.
  - 19) Sugiura-Ogasawara M, Aoki K, Fujii T, Fujita T, Kawaguchi R, Maruyama T, Ozawa N, Sugi T, Takeshita T, Saito S. Subsequent pregnancy outcomes in recurrent miscarriage patients with a paternal or maternal carrier of a structural chromosome rearrangement. *J Hum Genet*; 53: 622-628, 2008.
  - 20) Yamamoto T, Murase T, Kuno S, Ichikawa G, Chisima F. Leukocyte Subpopulation in Ascites of Women with Pre-Eclampsia. *Am J Reprod Immunol*. 60(4)318-324,2008
  - 21) Yuzawa E, Fujii S, Fukui A, et Al. Retinoic acid-inducible gene-I is induced by interferon-gamma and regulated CXCL11 expression in HeLa cells. *Life Science* 82: 670-675, 2008
  - 22) Fujii S: Biomarkers for embryo quality. *J Mamm Ova Res* 25: 1. 2008
  - 23) Fukuhara R, Fujii S, Fukui A, et al. Erythrocytes counteract the negative effects of female ageing on mouse preimplantation embryo development and blastocyst formation. *Hum Reprod* 2008;23:2080-5.
  - 24) Ozawa N, Maruyama T, Nagashima T, Ono M, Arase T, Ishimoto H, Yoshimura Y. Pregnancy outcomes of reciprocal translocation carriers who have a history of repeated pregnancy loss. *Fertil Steril* 90(4):1301-4, 2008
  - 25) Yamada T, Matsuda T, Kudo M, Yamada T, Moriwaki M, Nishi S, Ebina Y, Yamada H, Kato H, Ito T, Wake N, Sakuragi N, Minakami H. (2008) Complete hydatidiform mole with coexisting dichorionic diamniotic twins following testicular sperm extraction and intracytoplasmic sperm injection. *J Obstet Gynaecol Res* 34(1):121-124.
  - 26) Morikawa M, Yamada T, Yamada T, Cho K, Yamada H, Sakuragi N, Minakami H. (2008) Pregnancy outcome of women who developed proteinuria in the absence of hypertension after mid-gestation. *J Perinat Med* 36(5):419-424.
  - 27) Morikawa M, Sago H, Yamada T, Hayashi S, Yamada T, Cho K, Yamada H, Kitagawa M, Minakami H. (2008) Ileal atresia after fetoscopic laser photocoagulation for twin-to-twin transfusion syndrome—a case report. *Prenat Diagn* 28(11):1072-1074.
  - 28) 島 友子, 齋藤 滋: 第3章 臓器特異的な樹状細胞 4. 生殖器における樹状細胞サブセット機能. 「実験医学増刊」 140-145, 2008.
  - 29) 長谷川徹, 齋藤 滋: I 病態と疾患 産科救急流産・絨毛性疾患. 救急医学, 32(9):995-999, 2008.
  - 30) 中島彰俊, 伊藤実香, 齋藤 滋: 妊婦の感染症 妊婦の免疫学. 臨床婦人科産科, 62(6):807-811, 2008.
  - 31) 齋藤 滋: 【生殖医療の現状と問題】不育症の原因と治療. 日本医師会雑誌, 137:39-43, 2008.
  - 32) 齋藤 滋: 生殖医療 日本生殖免疫学会. 産婦人科の実際. 57(1):1071-1075, 2008
  - 33) 塩崎有宏, 齋藤 滋: 甲状腺疾患合併妊娠. 日本産科婦人科学会雑誌, 60: 41-45, 2008.
  - 34) 塩崎有宏, 齋藤 滋: 自己免疫疾患・膠原病合併妊娠. 日本産科婦人科学会雑誌, 60: 45-49, 2008.
  - 35) 塩崎有宏, 酒井正利, 齋藤 滋: II. 産科(周産期) § 10. 妊娠 1. 妊娠の生理. 「産婦人科学テキスト」倉智博久・吉村泰典編集, 380-420, 中外医学社, 東京, 2008.
  - 36) 大谷友夏, 因來実里, 秦久美子, 佐藤久恵, 永井真寿美, 中塚幹也. 流産・死産のグリーンケア: 母親と医療スタッフの捉え方. 日本不妊カウンセリング学会誌 7(1): 57-58, 2008.
  - 37) 江見弥生, 藤原順子, 相澤亜紀, 中塚幹也. 生殖医療を専門としたカウンセリングに対する認知度と要望. 日本不妊カウンセリング学会誌 7(1): 68-69, 2008.
  - 38) 川上舞子, 藤井友紀, 田上志保, 溝口祥代, 吉田真奈美, 山下真由, 中塚幹也. 凝固障害を伴

- う不育症患者のヘパリン注射に対する希望調査. 岡山県母性衛生 24(1): 42-43, 2008.
- 39) 後藤由佳, 山中祥栄, 莎如拉, 中塚幹也, 奥田博之. 自律神経機能と卵巣機能との関連—心拍変動解析を用いて—. 岡山県母性衛生 24(1):48-49, 2008.
- 40) 江見弥生, 中間みちよ, 藤原順子, 秦久美子, 佐藤久恵, 江國一二美, 中塚幹也. 不妊症・不育症治療におけるカウンセリングへの認知度と要望. 岡山県母性衛生 24(1): 61-62, 2008.
- 41) 因來実里, 中塚幹也, 秦久美子, 佐藤久恵, 大谷友夏, 永井真寿美, 佐々木真美, 松井たみこ. 死産後のグリーフケアの有用性. 岡山県母性衛生 24(1): 69-70, 2008.
- 42) 丸山哲夫, 吉村泰典:E. 婦人科疾患の診断・治療・管理 3. 内分泌疾患 嚢胞性卵巣症候群 日本産婦人科学会雑誌 2008; 60(11) 477-484.
- 43) 丸山哲夫, 小野政徳, 吉村泰典:ハイポキシア生物学—酸素代謝からみる生命現象の方程式 胎盤形成と酸素分圧 医学のあゆみ 2008; 225(13) 1323-1326
- 44) 丸山哲夫, 小田英之, 西川明花, 各務真紀, 内田 浩, 吉村泰典:特集 思春期の諸問題 1. 排卵障害 産科と婦人科 2008; 75(5) 529-536
- 45) 内田 浩, 荒瀬 透, 小野政徳, 各務真紀, 小田英之, 西川明花, 丸山哲夫, 吉村泰典:月経異常を伴う内分泌疾患 産婦人科治療 別冊 2008; 96(2) 163-168
- 46) 丸山哲夫, 西川明花, 小田英之, 荒瀬 透, 小野政徳, 各務真紀, 内田 浩, 吉村泰典: I. 生殖内分泌・不妊 2. 無月経 産科と婦人科 増刊号 2008; 75 8-14
- 47) 丸山哲夫, 長島 隆, 梶谷 宇, 内田 浩, 吉村泰典:子宮内膜脱落膜化の機序の解明—チロシンキナーゼ SRC の役割と意義— 産婦人科の実際 2008; 57(2) 193-198
- 48) 根岸靖幸(日本医科大学 微生物免疫学教室), 稲垣真一郎, 熊谷善博, 竹下俊行, 高橋秀実:樹状細胞 樹状細胞サブセットとその機能 妊娠マウスにおける樹状細胞の解析 日本免疫学会誌 (0919-1984) 38 巻, 205, 2008.
- 49) 稲川智子, 阿部崇, 峯克也, 桑原慶充, 里見操緒, 富山僚子, 明楽重夫, 竹下俊行 弓状子宮は不育症の原因になりうるか? 日本生殖医学会雑誌(1881-0098)53 巻 4 号, 282, 2008.
- 50) 杉浦真弓, 川口里恵, 丸山哲夫, 小澤伸晃, 杉俊隆, 竹下俊行, 斎藤滋. 染色体転座をもつ反復流産患者の生児獲得率に関する多施設共同研究 日本生殖医学会雑誌 (1881-0098)53 巻 4 号 Page281,2008.
- 51) 竹下俊行:習慣流産と母性について考える. 日産婦神奈川地方部会誌45巻(1)2-5, 2008.
- 52) 稲川智子, 竹下俊行:【周産期臨床検査のポイント】産科編 不育症(習慣流産)に対する検査 産婦人科の実際 57巻(12) 2013-2019, 2008.
- 53) 杉 俊隆. 特集 周産期診療プラクティス、不育症とその対策. 産婦人科治療. 第 96 巻増刊号. 550-554. 2008.
- 54) 杉 俊隆. 不育症. 産科と婦人科. 第 75 巻増刊号. 41-46, 2008.
- 55) 杉 俊隆. 不育症学級. 全65ページ. 金原出版. 2008.
- 56) 古田 祐, 白銀 透, 涌井之雄, 山田秀人, 酒井慶一郎(2008) 双胎妊娠管理中に発症した全身性エリテマトーデス. 北海道産科婦人科学会誌 52(1), 28-30.
- 57) 山田秀人(2008)ITP と妊娠中の問題点。「血栓止血の臨床—研修医のために」 日本血栓止血学会誌 19(2):202-205.
- 58) 山田秀人, 西川 鑑, 山本智宏, 水江由佳, 西平 順(2008) 妊婦の感染—胎児への影響と対策 トキソプラズマ. 「今月の臨床 妊婦の感染症」 臨床婦人科産科 62(6):839-843.
- 59) 山田秀人(2008)TORCH 症候群 18.産科感染症の管理と治療 D.産科疾患の診断・治療・管理(研修コーナー) 日産婦誌 60(6):N132-136.
- 60) 山田秀人(2008)血小板異常と妊娠分娩—特発性血小板減少性紫斑病, 血小板無力症. 「周産期の出血」徹底攻略. 周産期医学 38(7), 837-842.
- 61) 山田秀人, 免疫グロブリン胎児医療研究会(2008)先天性サイトメガロウイルス感染症に対する免疫グロブリン療法. 日産婦誌 60(9): N288-295.
- 62) 山田秀人, 免疫グロブリン胎児医療研究会(2008)先天性サイトメガロウイルス感染症と免疫グロブリン療法. 産婦人科治療 97(5): 485-493.

- 63) 森川 守, 山田 俊, 山田秀人, 水上尚典 (2008) 妊娠中の暫定的診断「妊娠蛋白尿」の病的意義. 腎と透析 61:717-723.
- 64) 山田秀人 (2008) 羊水過多・過少. 今日の治療指針 2008 版, 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編, 医学書院, 東京, 950-951.
- 65) 山田秀人, 北海道トキソプラズマ研究会, 免疫グロブリン胎児医療研究会 (2008) 胎児医療の現状と将来—母子感染治療と予防における新たな試み, 周産期診療プラクティス, 産婦人科治療第 96 巻増刊号, 松浦三男編, 永井書店, 大阪, 23-30.
- 66) 山田秀人 (2008) 妊娠, 授乳「各論 II 多臓器, 組織におけるホルモン相互作用」ホルモンの病態異常と臨床検査. 臨床検査 2008 年増刊号 52 巻 11 号, 藤枝憲二, 伊藤喜久編, 医学書院, 東京, 1351-1354.
- 67) 山田秀人 (2008) 血液型不適合妊娠. 「各種病態で必要な検査 (合併症妊娠で必要な母体の検査)」。周産期臨床検査のポイント産科編 周産期医学第 38 巻増刊号, 周産期医学編集委員会編, 東京医学社, 東京, 240-243.
- 68) 山田 俊, 山田秀人, 水上尚典 (2008) 絨毛膜羊膜炎の診断. 切迫早産の診断と治療, 岩下光利監修, メジカルビュー社, 東京, 98-109.
- 【2009 年】
- 1) Lin Y, Nakashima A, Shima T, Zhou X, Saito S.: Toll-like receptor signaling in uterine natural killer cells—role in embryonic loss. *J.Reprod Immunol.* 83:95-100,2009.
- 2) Saito S.: The Causes and Treatment of Recurrent Pregnancy Loss. *JMAJ.* 52(2): 97-102, 2009
- 3) Lin Y., Ren L., Wang W., Di J., Zeng S., Saito S.: Effect of TLR3 and TLR7 activation in uterine NK cells from non-obese diabetic (NOD) mice. *J.Reprod Immunol.* 82:12-23, 2009.
- 4) Lin Y., Wang W., Jin H., Zhong Y., Di J., Zeng S., Saito S.: Comparison of murine thymic stromal lymphopoietin- and polyinosinic polycytidylic acid-mediated placental dendritic cell activation. *J Reprod Immunol.* 79:119-128,2009.
- 5) Lin Y., Zhong Y., Saito S., Chen Y., Shen W., Di J., Zeng S. : Characterization of natural killer cells in nonobese diabetic/severely compromised immunodeficient mice during pregnancy. *Fertil Steril.* 2009;91:2676-2686.
- 6) Okamoto S, Tanaka T, et al. Mesenchymal to epithelial transition in the human ovarian surface epithelium focusing on inclusion cysts. *Oncol Rep* 21:1209-1214, 2009.
- 7) Omi H, Kawaguchi R, Tanaka T, et al.. Establishment of an immortalized human extravillous trophoblast cell line by retroviral infection of E6/E7/hTERT and its transcriptional profile during hypoxia and reoxygenation. *Int J Mol Med* 23:229-236, 2009.
- 8) Yuka Goto, Hiroyuki Okuda, Mikiya Nakatsuka. Autonomic response in women with psychosomatic symptoms: short-term frequency, domain analysis of heart rate variability in ergometer loading. *Journal of the Japan Society of Neurovegetative Research* 2009, 46(4) : 341-348.
- 9) Maruyama T; Therapeutic Strategies for Implantation Failure due to Endometrial Dysfunction. *J. Mamm. Ova Res.* 2009; 26, 129-133.
- 10) Arase T, Uchida H, Kajitani T, Ono M, Tamaki K, Oda H, Nishikawa S, Kagami M, Nagashima T, Masuda H, Asada H, Yoshimura Y, Maruyama T; The UDP-glucose receptor P2RY14 triggers innate mucosal immunity in the female reproductive tract by inducing IL-8. *J Immunol.* 2009; 182, 7074-7084.
- 11) Ishibashi O, Ishikawa G, Ishikawa T, Katayama A, Mishima T, Takizawa T, Shigihara T, Goto T, Izumi A, Ohkuchi A, Matsubara S, Takeshita T, Takizawa T. Human villous trophoblasts express and secrete placenta-specific microRNAs into maternal circulation via exosomes. *Biol Reprod.* 2009 Oct;81(4):717-29. Epub 2009 Jun 3.
- 12) Sugi T. Autoantibody associated disruption of kallikrein-kinin system in patients with recurrent pregnancy losses. *Jpn J Obstet Gynecol Neonatal Hematol*; Tomohiro Nakayama, Tatsuo Yamamoto Comparison between essential hypertension and pregnancy-induced hypertension:a genetic perspective *Endocrine Journal* 56(8), 921-934,2009
- 13) Fukui A, Fujii S, et al. Correlation between natural cytotoxicity receptors and intracellular

- cytokine expression of peripheral blood NK cells in women with recurrent pregnancy losses and implantation failures. *Am J Reprod Immunol* 62, 371-380, 2009.
- 14) Kimura H, Fukui A, Fujii S, et al. Timed sexual intercourse facilitates the recruitment of uterine CD56(bright) natural killer cells in women with infertility. *Am J Reprod Immunol* 62, 118-124, 2009.
- 15) Nishikawa A, Yamada H, Yamamoto T, Mizue Y, Akashi Y, Hayashi T, Nihei T, Nishiwaki M, Nishihira J. (2009) A case of congenital toxoplasmosis whose mother demonstrated serum low IgG avidity and positive tests for multiplex-nested PCR in the amniotic fluid. *J Obstet Gynaecol Res* 35(2):372-378.
- 16) Yamada H, Atsumi T, Kobashi G, Ota C, Kato EH, Tsuruga N, Ohta K, Yasuda S, Koike T, Minakami H. (2009) Antiphospholipid antibodies increase the risk of pregnancy-induced hypertension and adverse pregnancy outcomes. *J Reprod Immunol* 79:188-195.
- 17) Sata F, Toya S, Yamada H, Suzuki K, Saijo Y, Yamazaki A, Minakami H, Kishi R. (2009) Proinflammatory cytokine polymorphisms and the risk of preterm birth and low birth weight in a Japanese population. *Mol Hum Reprod* 15(2):121-130.
- 18) Shimada S, Yamada H, Hoshi N, Kobashi G, Okuyama K, Hanatani K, Fujimoto S. (2009) Specific ultrasound findings associated with fetal chromosome abnormality. *Congenit Anom (Kyoto)* 49(2):61-65.
- 19) Shimada S, Takeda M, Nishihira J, Kaneuchi M, Sakuragi N, Minakami H, Yamada H. (2009) A high dose of intravenous immunoglobulin increases CD94 expression on natural killer cells in women with recurrent spontaneous abortion. *Am J Reprod Immunol* 62(5):301-307.
- 20) 齋藤 滋, 杉浦真弓: ワークショップ 12「不育症の新たな原因探索と治療」座長のまとめ. *日本周産期・新生児医学会雑誌*. 45:1143, 2009
- 21) 長谷川徹, 齋藤滋: 初期妊娠異常の診断と管理: 過大着床部・PSTT. *産科と婦人科*, 76: 295-300, 2009.
- 22) 齋藤 滋: 産婦人科 不育症の検査と治療 質疑応答. *日本医事新報*. 4443,82-83, 2009.
- 23) 齋藤 滋: 「炎症を中心とした免疫反応」周産期医療と inflammatory response. *周産期医学*. 39:675-679, 2009.
- 24) 齋藤 滋, 杉浦真弓, 田中忠夫, 藤井知行, 杉俊隆, 丸山哲夫, 竹下俊行, 山田秀人, 小澤伸晃, 木村正, 山本樹生, 藤井俊策, 中塚幹也, 下屋浩一郎: ワークショップ 12「不育症の新たな原因探索と治療」本邦における不育症のリスク因子とその予後に関する研究. *日本周産期・新生児医学会雑誌*, 45:1144-1148, 2009
- 25) 矢富茜, 久下さくら, 三谷久美子, 奥村永里子, 難波沙由里, 米藤由貴, 江見弥生, 中塚幹也. 流・死産後の環境と不育症女性の心理. *岡山県母性衛生* 25: 50-51, 2009
- 26) 里見操緒, 竹下俊行: 【生殖と免疫をめぐる】夫リンパ球免疫療法後の続発性不妊症: 臨床免疫・アレルギー科(1881-1930)52 巻 2 号 Page176-179,2009.
- 27) 峯克也, 富山僚子, 桑原慶充, 稲川智子, 阿部崇, 西弥生, 明楽重夫, 成相孝一, 佐藤嘉兵, 竹下俊行: 排卵誘発時の卵胞液中 hexanoyl-lysine 濃度と ART 臨床背景の検討: 日本受精着床学会雑誌(0914-6776)26 巻 1 号 Page114-117,2009.
- 28) 竹下俊行(日本医科大学 産婦人科): 【周産期医療と inflammatory response】不育症: 周産期医学(0386-9881)39 巻 6 号 Page719-722,2009.
- 29) 竹下俊行: 不育症の診断と治療 子宮奇形の検査と治療: 日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌(0285-8096)46 巻 2 号 Page132,2009.
- 30) 竹下俊行(日本医科大学 産婦人科学): 不育症と母性 流産死産後の心理ケア: 神奈川母性衛生学会誌 (1343-831X)12 巻 1 号 Page73-74,2009.
- 31) 竹下俊行(日本医科大学 産婦人科学教室)【ここが聞きたい 不妊・不育症診療ベストプラクティス】不育症の検査・診断 内分泌・代謝因子【内分泌・代謝異常】不育症における甲状腺機能異常の病態について教えてください. 本当に流産との関係はあるのでしょうか: 臨床婦人科産科(0386-9865)63 巻 4 号 Page639-641,2009
- 32) 竹下俊行(日本医科大学 産婦人科学教室)【ここが聞きたい 不妊・不育症診療ベストプラクティス】不育症の検査・診断 内分泌・代謝因子

【内分泌・代謝異常】 生殖内分泌異常,甲状腺機能異常,糖尿病の検査の実際について教えてください:臨床婦人科産科(0386-9865)63 巻 4号 Page636-637,2009.

- 33) 杉 俊隆. 不育症と自己免疫性 thrombophilia (抗リン脂質抗体、抗第 XII 因子抗体、抗キニンノーゲン抗体)。血栓止血誌; 20: 510-518, 2009.
  - 34) 市川 剛、山本樹生 抗β2グリコプロテインI抗体による絨毛障害 臨床免疫・アレルギー科 52 巻 2 号、188-189,2009
  - 35) 山本 樹生、青木 洋一、中村 晃和 III 不育症の検査・診断 B免疫因子【抗リン脂質抗体】 臨床婦人科産科 第 6 3 巻 第 4 号、629-631,2009
  - 36) 藤井俊策, 福井淳史 他. 着床のメカニズム「NK 細胞」. Hormone Frontier in Gynecology 16, 60-67, 2009.
  - 37) 福井淳史,藤井俊策,他: 受精卵着床不全における NK 細胞の役割. 臨床免疫・アレルギー科 52:158-165, 2009.
  - 38) 福井淳史,藤井俊策,他.着床不全症例における NK 細胞上 natural cytotoxicity receptors 発現と NK 細胞産生サイトカイン. 日本受着会誌 26:341-347, 2009.
  - 39) 小澤伸晃:【産婦人科専攻医の研修 何を教える?何を学ぶ?(生殖医療編)】 不育症の管理(解説/特集). 産科と婦人科. 76(6), 703-708. 2009.
  - 40) 山田秀人(2009): 抗リン脂質抗体は産科異常,特に妊娠高血圧症候群と関連する. 日本周産期・新生児医学会雑誌 45(4):1149-1151.
  - 41) 天野真理子, 山田秀人(2009): 不育症と先天性凝固異常. 日本血栓止血学会誌 20(5), 506-509.
- 【2010 年】
- 1) Saito S, Shima T, Nakashima A, Lin Y. Immune surveillance during pregnancy. Ind. J. Physiol. Pharmacol. 54:60-63, 2010.
  - 2) Saito S, Nakashima A, Shima T, Ito M. Th1/Th2/Th17 and regulatory T cell paradigm in pregnancy. Am J Reprod Immunol. 63:601-610, 2010.
  - 3) Shima T, Sasaki Y, Itoh M, Nakashima A, Ishii N, Sugamura K, Saito S. Regulatory T cells are necessary for implantation and maintenance during early stage of pregnancy, but not necessary during late stage of pregnancy in allogeneic mice. J. Reprod Immunol 85:121-129,2010.
  - 4) Nakashima A, Ito M, Shima T, Bac ND, Hidaka T, Saito S: Accumulation of IL-17-positive cells in decidua of inevitable abortion cases. Am J Reprod Immunol. 2010;64:4-11.
  - 5) Nakashima A, Ito M, Yoneda S, Shiozaki A, Hidaka T, Saito S.: Circulating and decidual Th17 cell levels in healthy pregnancy. Am J Reprod Immunol.63:104-109, 2010.
  - 6) Lash G.E., Burton G.J. , Chamley, L.W. Clifton V.L. , Constancia M., Crocker I.P. , Dantzer V. , Desoye G. , Drewlo S., Hemmings D.G. , Hiendleder S. , Kalionis B. , Keelan J.A., Kudom Y., Lewis R.M., Manuelpillai U. , Murthi P. , Natale D., Pfarrer C., Robertson S., Saffery R. , Saito S. , Sferruzzi-Perri A., Sobrevia L. , Waddell B.J. , Roberts C.T.: IFPA Meeting 2009 Workshops Report. Placenta 31, Supplement A, Trophoblast Research, 24: S4-S20, 2010.
  - 7) Shiozaki A., Yoneda S., Soeda Y., Saito S.: Antenatal diagnosis of Breus' mole by ultrasonography. Jpn. J. Obstet. Gynecol. Neonatal Hematol. 19:43-50, 2010.
  - 8) Saito S.: Th17 cells and regulatory T cells: New light on pathophysiology of preeclampsia. Immunology and Cell Biology. News and Commentary. 88:615-617, 2010.
  - 9) Ito M., Nakashima A., Hidaka T., Okabe M., Bac N.D., Ina S., Yoneda S., Shiozaki A., Sumi S., Tsuneyama K., Nikaido T., Saito S. :A role for IL-17 in induction of an inflammation at fetomaternal interface in preterm labour. J.Reprod Immunol. 84:75-85, 2010.
  - 10) Mikiya Nakatsuka . Endocrine treatment of transsexuals: assessment of cardiovascular risk factors. Expert Rev. Endocrinol. Metab. 5(3) 319-322, 2010
  - 11) Ono M, Kajitani T, Uchida H, Arase T, Oda H, Nishikawa-Uchida S, Masuda H, Nagashima T, Yoshimura Y, Maruyama T: OCT4 expression in human uterine myometrial stem/progenitor cells. Hum Reprod. 2010; 25(8), 2059-2067.
  - 12) Maruyama T, Masuda H, Ono M, Kajitani T,

- Yoshimura Y: Human uterine stem/progenitor cells: their possible role in uterine physiology and pathology. *Reproduction*. 2010; 140, 11–22.
- 13) Masuda H, Matsuzaki Y, Hiratsu E, Ono M, Nagashima T, Kajitani T, Arase T, Oda H, Uchida H, Asada H, Ito M, Yoshimura Y, Maruyama T, Okano H: Stem Cell-Like Properties of the Endometrial Side Population: Implication in Endometrial Regeneration. *PLoS ONE*. 2010; 5(4), e10387.
  - 14) Maruyama T: Stem/progenitor cells and the regeneration potentials the human uterus. *Reprod Med Biol*. 2010; 9, 9–16.
  - 15) Miyake H, Iwasaki N, Nakai A, Suzuki S, Takeshita T.: The influence of assisted reproductive technology on women with pregnancy-induced hypertension: a retrospective study at a Japanese Regional Perinatal Center. *J Nippon Med Sch*. 2010 Dec;77(6):312–7.
  - 16) Kawabata I, Nagase A, Oya A, Hayashi M, Miyake H, Nakai A, Takeshita T.: Factors influencing the accuracy of digital examination for determining fetal head position during the first stage of labor. *J Nippon Med Sch*. 2010 Dec;77(6):290–5.
  - 17) Abe T, Amano I, Sawa R, Akira S, Nakai A, Takeshita T.: Recovery from peripartum cardiomyopathy in a Japanese woman after administration of bromocriptine as a new treatment option. *J Nippon Med Sch*. 2010 Aug;77(4):226–30.
  - 18) Kurashina R, Shimada H, Matsushima T, Doi D, Asakura H, Takeshita T.: Spontaneous uterine perforation due to clostridial gas gangrene associated with endometrial carcinoma. *J Nippon Med Sch*. 2010 Jun;77(3):166–9.
  - 19) Inde Y, Yamaguchi S, Kamoi S, Takeshita T.: Transition of cytomegalovirus seropositivity in Japanese puerperal women. *J Obstet Gynaecol Res*. 2010 Jun;36(3):488–94.
  - 20) Hayashi M, Oya A, Miyake H, Nakai A, Takeshita T.: Effect of urinary trypsin inhibitor on preterm labor with high granulocyte elastase concentration in cervical secretions. *J Nippon Med Sch*. 2010 Apr;77(2):80–5.
  - 21) Yagi Y, Watanabe E, Watari E, Shinya E, Satomi M, Takeshita T, Takahashi H.: Inhibition of DC–SIGN-mediated transmission of human immunodeficiency virus type 1 by Toll-like receptor 3 signalling in breast milk macrophages. *Immunology*. 2010 Aug;130(4):597–607. Epub 2010 Apr 6.
  - 22) Takeuchi H, Takahashi M, Norose Y, Takeshita T, Fukunaga Y, Takahashi H.: Transformation of breast milk macrophages by HTLV-I: implications for HTLV-I transmission via breastfeeding. *Biomed Res*. 2010;31(1):53–61.
  - 23) Obayashi S, Ozaki Y, Sugi T, Kitaori T, Katano K, Suzuki S, Sugiura-Ogasawara M. Antiphosphatidylethanolamine antibodies might not be an independent risk factor for further miscarriage in patients suffering recurrent pregnancy loss. *J Reprod Immunol*; 85: 186–192, 2010.
  - 24) Effects of anti  $\beta$  2-GPI antibody on PIGF ,VEGF and sVEGFR1 production from cultured choriocarcinoma cell line Go Ichikawa, Tatsuo Yamamoto, Fumihisa Chishima ,Akikazu Nakamura, Souichirou Kuno,Takayuki Murase, Manami Suzuki *J Obstet Gynecol Reseach* in press
  - 25) Yamada H, Atsumi T, Amengual O, Koike T, Furuta I, Ohta K, Kobashi G. Anti-  $\beta$  2 glycoprotein-I antibody increases the risk of pregnancy-induced hypertension: a case-control study. *J Reprod Immunol* 84:95–99, 2010
  - 26) Mitsuhashi T, Warita K, Tabuchi Y, Takasaki I, Kondo T, Sugawara T, Hayashi F, Wang ZY, Matsumoto Y, Miki T, Takeuchi Y, Ebina Y, Yamada H, Sakuragi N, Yokoyama T, Nanmori T, Kitagawa H, Kant JA, Hoshi N. Global gene profiling and comprehensive bioinformatics analysis of a 46,XY female with pericentric inversion of the Y chromosome. *Congenit Anom (Kyoto)* 50:40–51, 2010
  - 27) Mitsuhashi T, Warita K, Sugawara T, Tabuchi Y, Takasaki I, Kondo T, Hayashi F, Wang ZY, Matsumoto Y, Miki T, Takeuchi Y, Ebina Y, Yamada H, Sakuragi N, Yokoyama T, Nanmori T, Kitagawa H, Kant JA, Hoshi N: Epigenetic abnormality of SRY gene in the adult XY female

- with pericentric inversion of the Y chromosome. Congenit Anom (Kyoto) 50:85-94, 2010
- 28) Shimada S, Yamada H, Atsumi T, Yamada T, Sakuragi N, Minakami H. Intravenous immunoglobulin therapy for aspirin-heparinoid-resistant antiphospholipid syndrome. Reprod Med Biol 9:217-221, 2010
- 29) Yamada H, Ohara N, Amano M. Current concepts on immunological etiologies in recurrent spontaneous abortion and intravenous immunoglobulin therapy. Res. Adv. in Reproductive Immunology.1, 1-21, 2010
- 30) Lee SK, Fukui A, et al. Fluctuation of Peripheral Blood T, B, and NK Cells during a Menstrual Cycle of Normal Healthy Women. J Immunol, 185: 756-762, 2010
- 31) Obayashi S, Ozaki Y, Sugi T, Kitaori T, Katano K, Suzuki S, Sugiura-Ogasawara M. Antiphosphatidylethanolamine antibodies might not be an independent risk factor for further miscarriage in patients suffering recurrent pregnancy loss. J Reprod Immunol; 85: 186-192, 2010.
- 32) 齋藤 滋, 中島彰俊, 島 友子:妊娠と免疫. 周産期医学. 40:1569-1573,2010.
- 33) 島 友子, 中島彰俊, 齋藤 滋:胎盤と免疫. 周産期医学, 40:1037-1042, 2010.
- 34) 島 友子, 中島彰俊, 齋藤 滋:凝固系と炎症反応. 産科と婦人科, 77:956-962, 2010.
- 35) 米田 哲, 齋藤 滋:流産. 消化器外科 外科当直医必携. へるす出版, 33:763-765,2010.
- 36) 齋藤 滋, 島 友子, 中島彰俊:着床、妊娠維持における制御性(regulatory)T細胞の重要性. 医学のあゆみ, 233: 129-134,2010.
- 37) 齋藤 滋:周産期 習慣流産に対する抗凝固療法—アスピリン単独療法か、アスピリン+ヘパリン併用療法か—. 産婦人科の実際, 59: 299-302, 2010.
- 38) 鮫島梓, 米田徳子, 齋藤滋:身体所見. ペリネイタルケア 2373: 27-35, 2010.
- 39) 秦久美子. 不育症女性の妊娠による束縛感と不安. 岡山大学大学院保健学研究科博士前期課程論文(指導 中塚幹也)
- 40) 中塚幹也. 妊産褥婦の診察と検査／妊娠の診断と妊婦管理. 講義録産科婦人科学, 石原理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫編, メジカルビュー社, 東京, 2010年2月.
- 41) 中塚幹也. ジェンダーとセクシュアリティ. 講義録産科婦人科学, 石原理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫編, メジカルビュー社, 東京, 2010年2月.
- 42) 中村恵子, 小野晴美, 芳賀真子, 中塚幹也. 岡大式の教育資材を用いた不育症患者に対するヘパリン自己注射指導の有用性の検討. 看護研究集録平成21年度 69-74, 2010
- 43) 吉田真奈美, 溝口祥代, 山下真由, 中塚幹也. 妊婦における食の安全性, 葉酸, 水銀の摂取に関する認識. 母性衛生 50(4):568-574, 2010
- 44) 小寺菜見子, 大田有貴子, 塩田萌, 中塚幹也. 不妊症に対する高校生と大学生の意識調査. 岡山県母性衛生. 第26号:43-44, 2010.
- 45) 江見弥生, 莎如拉, 松田美和, 清水恵子, 小谷早葉子, 菊池由加子, 鎌田泰彦, 平松祐司, 中塚幹也. 不育症症例における初診時の顕在性不安の検討. 岡山県母性衛生. 第26号: 45-46, 2010.
- 46) 中塚幹也. LPS, AGEs 刺激による一酸化窒素(NO)産生酵素誘導とプロテアーゼインヒビター. Surgery Frontier 17(3):111-116, 2010.
- 47) 江見弥生, 藤原順子, 中塚幹也. 不育症女性の抑うつ傾向と顕在性不安の検討:K6, MAS を使用して. 日本不妊カウンセリング学会誌 9(1): 43-44, 2010.
- 48) 石丸文穂, 藤原順子, 江見弥生, 中塚幹也. 不妊専門相談センターによる遠隔地の出張相談. 日本不妊カウンセリング学会誌 9(1):77-78, 2010.
- 49) 杉 俊隆, 中塚幹也(ライター 狩生聖子)知って得する! 新「名医の最新治療」Vol.156 不育症. 週刊朝日 115(51)通巻 5037号 104-106, 2010年11月12日. 新「名医」の最新治療2011: その病気はこうやって治せ! 朝日新聞出版, 東京.
- 50) 丸山哲夫: 子宮における幹細胞産婦人科の実際 2010;59(9):1381-1387.
- 51) 丸山哲夫: ヒト子宮における幹細胞. 日本生殖内分泌学会雑誌 2010; 15, 25-27.
- 52) 市川智子, 神戸沙織, 阿部崇, 富山僚子, 峯克也, 桑原慶充, 里見操緒, 澤倫太郎, 明楽重夫, 竹下俊行:アスピリン・ヘパリン療法不成功不育症例の臨床遺伝学的検討. 日本受精着床学会雑誌(0914-6776)27 巻1号 260-263. 2010.

- 53) 峯克也, 桑原慶充, 神戸沙織, 市川智子, 阿部崇, 富山僚子, 西弥生, 明楽重夫, 竹下俊行: アスピリン・ヘパリン療法中に絨毛膜下血腫を呈し、アスピリン中止後子宮内胎児死亡に至った胎児腹壁破裂症例. 日本受精着床学会雑誌 (0914-6776)27 卷 1 号 252-255. 2010.
- 54) 中西一步, 阿部崇, 中尾仁彦, 大内望, 市川智子, 峯克也, 澤倫太郎, 磯崎太一, 明楽重夫, 竹下俊行: 抗凝固療法を行ったにも関わらず脳梗塞を合併した抗リン脂質抗体陽性妊婦の一例. 日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌 (0285-8096)47 卷 2 号. 2010
- 55) 杉 俊隆. 抗 phosphatidylethanolamine 抗体と抗第 XII 因子抗体. 医学のあゆみ; 233: 169-174, 2010.
- 56) 杉 俊隆. 習慣流産と血液凝固阻害薬. 産科と婦人科; 77: 925-930, 2010.
- 57) 杉 俊隆. 不育症. 講義録 産科婦人科学. 編集 石原 理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫. メジカルビュー社. 244-245. 2010.
- 58) 杉 俊隆. 抗リン脂質抗体症候群. 日産婦誌; 62: N150-154, 2010.
- 59) 杉 俊隆. 抗リン脂質抗体. 生殖医療ガイドライン 2010. 日本生殖医学会編. 金原出版. 278-280, 2010.
- 60) 杉 俊隆. 不育症とは. 月刊地域保健. 東京法規出版. 2010.6.38-43.
- 61) 抗β2GPI 抗体とその作用機序 山本樹生, 市川 剛, 千島史尚, 医学のあゆみ 233(2)163-167,2010
- 62) 小澤伸晃, 他: 高齢妊娠と流産リスク. 産婦の実際 59(2):167-172, 2010.
- 63) 小澤伸晃, 他: 産婦人科領域におけるアレイ CGH 3.産科領域の CGH 解析. 産婦の実際 59(2):237-243, 2010.
- 64) 小澤伸晃, 他: 流産胎児の遺伝学的解析. 産婦の実際 59(12):2009-2014, 2010.
- 65) 山田秀人. 難治性習慣流産の免疫グロブリン療法. 週間日本医事新報 4487, 52-57, 2010
- 66) 山田秀人, 小橋 元, 渥美達也. 抗リン脂質抗体は産科異常, 特に妊娠高血圧症候群と関連する. 産婦人科の実際 59(5), 789-794, 2010
- 67) 天野真理子, 森實真由美, 山田秀人. 不育と遺伝因子. 産婦人科の実際 59(12), 1969-1983, 2010
- 68) 山田秀人. 不育症の病因と治療-難治性習慣流産に対する免疫グロブリン療法-. 北産婦医会報第 123 号, 2-11, 2010
- 69) 福井淳史, 他. 黄体中期子宮内膜および流産脱落膜 Natural Killer 細胞における Natural Cytotoxicity Receptors 発現. 日本受精着床学会雑誌 27 (1): 369-374, 2010
- 【2011年】
- 1) Lin Y, Li C, Shan B, Wang W, Saito S, Xu J, Di J, Zhong Y, Li DJ. Reduced stathmin-1 expression in NK cells associated with spontaneous abortion. Am J Pathol.178 : 506-514, 2011.
- 2) Hayashi K., Matsuda Y., Kawamichi Y., Shiozaki A., Saito S.: Smoking during pregnancy increases risks of various obstetric complications: A case-cohort study of the Japan Perinatal Registry Network Database. J Epidemiol. 2011; 21:61-66
- 【In press】
- 1) Yamashita K., Yoshioka Y., Higashisaka K., Mimura K., Morishita Y., Nozaki M., Yoshida T., Ogura T., Nabeshi H., Nagano K., Abe Y., Kamada H., Monobe Y., Imazawa T., Aoshima H., Shishido K., Kawai Y., Mayumi T., Tsunoda S., Itoh N., Yoshikawa T., Yanagihara I., Saito S., Tsutsumi Y. : Silica and titanium dioxide nanoparticles cause pregnancy complications in mice.,Nature Nanotechnology (Nat. Nanotechnol.), in press.
- 2) Saito S, Nakashima A, Shima T, Future directions of studies for recurrent miscarriage associated with immune etiologies. J Reprod Immunol. in press.
- 3) Effects of anti β2-GPI antibody on PIGF ,VEGF and sVEGFR1 production from cultured choriocarcinoma cell line Go Ichikawa, Tatsuo Yamamoto, Fumihisa Chishima ,Akikazu Nakamura, Souichirou Kuno,Takayuki Murase, Manami Suzuki J Obstet Gynecol Reseach in press
- 4) 杉 俊隆. 抗リン脂質抗体症候群と静脈血栓塞栓症. 臨床婦人科産科. (in press)
- 5) 杉 俊隆. 抗リン脂質抗体症候群の診療. 産婦人科治療. 2011 年増刊大特集. 不妊診療のすべて. (in press)



## 2. 学会発表

### 【2008年】

- 1) Nakashima A., Shiozaki A., Myojo S., Ito M., Tatematsu M., Saito S.: Decidual Natural Killer cell derived granulysin induces apoptosis of extravillous trophoblast in miscarriage. 14<sup>th</sup> International Federation of Placenta Associations Meeting. 2008, 9.10-13, Seggau Castle, Austria.
- 2) Tatematsu M., Nakashima A., Saito S.: Autophagy plays roles in the invasion of extravillous trophoblast into the maternal side in severe environments. 14<sup>th</sup> International Federation of Placenta Associations Meeting. 2008, 9.10-13, Seggau Castle, Austria.
- 3) Maki Kagami, Tetsuo Maruyama, Tomoe Koizumi, Toru Arase, Hiroshi Uchida, Yasunori Yoshimura; Psychosocial stress and mental health status of Japanese couples with a history of repeated pregnancy loss. 64<sup>th</sup> ASRM 2008 Annual Meeting. November 8-12, 2008, San Francisco
- 4) Yamada H, Atsumi T, Kobashi G, Minakami H (2008) Antiphospholipid antibody and the risk of serious adverse pregnancy outcomes. The 21<sup>st</sup> European Congress of Perinatal Medicine September 10-13, Istanbul, Turkey.
- 5) Ozawa N, et al: Cytogenetic analyses of spontaneous abortions by array comparative genomic hybridization (24<sup>th</sup> Annual Meeting of the European Society of Human Reproduction and Embryology. 2008.7).
- 6) Go ICHIKAWA, Tatsuo YAMAMOTO, Youchi AOKI, Souichiro KUNO, Takayuki MURASE, Humihisa CHISHIMA Effects of anti  $\beta$  2-GPI antibody positive sera on VEGF, PlGF, Endoglin and sVEGFR1 production from cultured choriocarcinoma cell line. 28<sup>th</sup> Annual meeting of American society of immunology reproduction Chicago June 2008
- 7) Fukui A, Fujii S, et al. Expression of Natural Cytotoxicity Receptors and a2V-ATPase on endometrial NK cells in women with recurrent spontaneous abortions and implantation failures, Am J Reprod Immunol, 59 (6), 509, 2008 (28<sup>th</sup> American Society for reproductive Immunology)
- 8) Kimura H, Fukui A, Fujii S, et al. Expression of Natural Cytotoxicity Receptors and a2V-ATPase on peripheral blood NK cells in pregnancy women with repeated abortion, Am J Reprod Immunol, 59 (6), 510, 2008 (28<sup>th</sup> American Society for reproductive Immunology)
- 9) Lee S, Fukui A, et al. Immune variables influencing regulatory T cell levels in peripheral blood of normal healthy women, Am J Reprod Immunol, 59 (6), 509, 2008 (28<sup>th</sup> American Society for reproductive Immunology)
- 10) Fukui A, Fujii S, et al. The Expression of Natural Cytotoxicity Receptors and production of NK cell cytokines in pregnant women with pregnancy induced hypertension. Am J Reprod Immunol, 59 (6), 509, 2008 (29<sup>th</sup> American Society for reproductive Immunology)
- 11) Sugi T, Fujita Y. aPE which recognize LDC27 are associated with factor XII deficiency in patients with recurrent pregnancy losses. American Society for Reproductive Immunology -28<sup>th</sup> Annual Meeting, Chicago, 2008.
- 12) 中島彰俊, 塩崎有宏, 伊藤実香, 立松美樹子, 明星須晴, 齋藤 滋: 流産症例において, Granulysin 陽性 NK 細胞は Extravillous trophoblast (EVT) をアポトーシスに陥らせる. 第 16 回日本胎盤学会学術集会, 2008, 11, 13-14, 浜松.
- 13) 中島彰俊, 塩崎有宏, 明星須晴, 伊藤実香, 立松美樹子, 齋藤 滋: 脱落膜 NK 細胞由来 Granulysin は絨毛外トロホプラストにアポトーシスを誘導し, 流産誘導に関与する. 第 23 回日本生殖免疫学会総会・学術集会, 2008, 12, 6-7, 富山.
- 14) 立松美樹子, 中島彰俊, 齋藤 滋, 二階堂敏雄: オートファジーによる低栄養, 低酸素下での絨毛外栄養細胞浸潤能の亢進. 第 60 回日本産科婦人科学会総会・学術講演会. 2008, 4, 12-15, 横浜.
- 15) 立松美樹子, 中島彰俊, 齋藤 滋: シンポジウム「オートファジーの絨毛外栄養細胞における新たな調節機構」. 第 16 回日本胎盤学会学術集会, 2008, 11, 13-14, 浜松.

- 16) [第23回日本生殖免疫学会学術集会 学会賞] 荒瀬 透, 丸山哲夫, 内田 浩, 梶谷 宇, 西川明花, 小田英之, 各務真紀, 浅田弘法, 吉村泰典:子宮内膜における P2RY14 を介した新たな粘膜防御機構.第23回日本生殖免疫学会(富山)2008年12月6日-7日
- 17) 杉浦真弓, 川口里恵, 丸山哲夫, 小澤伸晃, 杉俊隆, 竹下俊行, 齋藤 滋:染色体転座をもつ反復流産患者の生児獲得率に関する多施設共同研究.第53回日本生殖医学会(神戸)2008年10月23日-24日
- 18) 西川明花, 丸山哲夫, 小田英之, 各務真紀, 荒瀬 透, 小野政徳, 長島 隆, 内田 浩, 吉村泰典:Chemical abortionの既往を有する反復流産患者の病院および妊娠転帰に関する検討.第53回日本生殖医学会(神戸)2008年10月23日-24日
- 19) 各務真紀, 丸山哲夫, 西川明花, 小田英之, 小野政徳, 荒瀬 透, 長島 隆, 内田 浩, 吉村泰典, 小泉智恵, 小澤伸晃:不育症夫婦のストレスとメンタルヘルス;その実体と男女間の差について.第53回日本生殖医学会(神戸)2008年10月23日-24日
- 20) 杉浦真弓, 青木耕治, 藤井知行, 藤田富雄, 川口里恵, 丸山哲夫, 小澤伸晃, 杉俊隆, 竹下俊行, 齋藤 滋:染色体転座をもつ反復流産患者の次回生児獲得率-多施設共同研究.第53回日本人類遺伝学会(横浜)2008年9月27日-30日
- 21) 内田 浩, 丸山哲夫, 荒瀬 透, 小野政徳, 各務真紀, 小田英之, 西川明花, 梶谷 宇, 浅田弘法, 青木大輔, 吉村泰典:ヒト着床モデルにおける epithelial-to-mesenchymal transition - N-cadherin -の時期特異的機能関与-.  
第60回日本産婦人科学会(横浜)2008年4月
- 22) 荒瀬 透, 丸山哲夫, 内田 浩, 梶谷 宇, 小野政徳, 小田英之, 西川明花, 各務真紀, 浅田弘法, 青木大輔, 吉村泰典:ヒト雌性生殖器官における新しい感染防御システム-G蛋白共役型受容体 P2Y14 とそのリガンド UDP-glucose-.第60回日本産婦人科学会(横浜)2008年4月
- 23) 小田英之, 丸山哲夫, 西川明花, 各務真紀, 小野政徳, 荒瀬 透, 内田 浩, 青木大輔, 吉村泰典:クロミフェン抵抗性に関与する諸因子の検討.第60回日本産婦人科学会(横浜)2008年4月
- 24) 矢富茜, 久下さくら, 三谷久美子, 奥村永里子, 難波沙由里, 米藤由貴, 江見弥生, 中塚幹也「流・死産後の環境と不育症女性の心理」岡山県母性衛生学会, 2008年11月
- 25) 山田秀人, 免疫グロブリン胎児医療研究会(2008)先天性サイトメガロウイルス感染症に対する免疫グロブリン療法.第60回日本産科婦人科学会学術講演会(クリニカルカンファレンス), 4月12-15日, 横浜
- 26) 山田秀人, 出口圭三, 南真志穂, 涌井之雄, 峰松俊夫, 水上尚典(2008)免疫グロブリンによるCCMVI 予防研究の結果.第4回免疫グロブリン胎児医療研究会, 4月14日, 横浜
- 27) 山田秀人(2008)先天性ウイルス・トキソプラズマ感染症に対する新たな出生前医療.第30回和歌山周産期医学研究会(特別講演), 9月6日, 和歌山
- 28) 山田秀人, 渥美達也, 小橋 元, 太田智佳子, 敦賀律子, 平山恵美, 太田薫里, 小池隆夫, 水上尚典(2008)抗リン脂質抗体の妊婦スクリーニングによる産科異常の前方視的関連解析.第29回日本妊娠高血圧学会学術集会「妊娠高血圧症候群の病態に迫る」(シンポジウム), 10月11-12日, 福島
- 29) 小澤伸晃, 他:アレイ CGH 法を用いた流産原因の遺伝学的解析(第53回 日本人類遺伝学会 2008.9).
- 30) 子宮局所における一過性遺伝子導入方法を用いた着床不全マウスモデルの作製 香山晋輔, 中村仁美, 谷口武, 荻田和秀, 熊澤恵一, 張慶, 筒井建紀, 金田安史, 木村正 第53回日本生殖医学会 平成20年10月24日 神戸
- 31) 着床期子宮局所における STAT-3 活性の役割 中村仁美, 香山晋輔, 谷口武, 荻田和秀, 熊澤恵一, 張慶, 筒井建紀, 古山将康, 杉野法広, 田村博史, 金田安史, 木村正 第13回日本生殖内分泌学会 平成20年11月29日 大阪
- 32) 一過性遺伝子導入方法を用いた着床現象の検討 中村仁美, 香山晋輔, 谷口武, 荻田和秀, 熊澤恵一, 張慶, 筒井建紀, 古山将康, 杉野法広, 田村博史, 金田安史, 木村正 第23回日本生殖免疫学会 平成20年12月6~7日 富山
- 33) 岩澤有希, 川名 敬, 藤井知行, 永松 健, 松本順子, 三浦紫保, 山下隆博, 兵藤博信, 上妻志郎, 武谷雄二:絨毛細胞上に存在するリン脂質抗原提示分子「CD1d」を介した、 $\beta_2$ glycoprotein

- I 依存性抗リン脂質抗体による新規流産メカニズムに関する検討. 第 23 回日本生殖免疫学会総会・学術集会. 富山. 2008.12
- 34) 市川 剛、中村晃和、久野宗一郎、村瀬隆之、千島史尚、山本樹生 妊娠高血圧症候群における抗リン脂質抗体の絨毛細胞機能への影響 第 29 回妊娠高血圧学会 福島 10 月 2008 年
- 35) 市川 剛、中村晃和、鈴木真実、久野宗一郎、村瀬隆之、山本樹生  $\beta$ 2-GPI 抗体の絨毛癌細胞よりの PIGF 産生に対する影響、補体の影響について 第 53 回日本生殖医学会総会・学術講演会 神戸 10 月 2008
- 36) 青木 洋一、市川 剛、久野 宗一郎、村瀬 隆之、千島 史尚、山本 樹生 胞状奇胎と正常妊娠における末梢血および脱落膜 NK 細胞の検討 第 16 回 日本胎盤学会学術集会、11 月 14 日、神戸
- 37) 杉 俊隆、三上幹男。不育症患者における Leu331-Met357 を認識する kininogen 依存性抗 PE 抗体と第 XII 因子活性との関係。第 60 回日本産科婦人科学会。横浜。2008。
- 38) 大林伸太郎、尾崎康彦、杉 俊隆、熊谷恭子、中西珠央、杉浦真弓。不育症患者における phosphatidylethanolamine (PE) 結合蛋白を認識する抗 PE 抗体の有用性の検討。第 60 回日本産科婦人科学会。横浜。2008。
- 39) 熊谷恭子、尾崎康彦、杉 俊隆、大林伸太郎、中西珠央、杉浦真弓。反復流産病態におけるカルパイン・カルパスタチン系の存在と意義及び phosphatidylethanolamine 結合蛋白を認識する抗 PE 抗体との関連。第 60 回日本産科婦人科学会。横浜。2008。
- 40) 杉浦真弓、川口里恵、丸山哲夫、小澤伸晃、杉 俊隆、竹下俊行、斎藤 滋。染色体転座をもつ反復流産患者の生児獲得率に関する多施設共同研究。第 53 回日本生殖医学会。神戸。2008。
- 41) 大林伸太郎、尾崎康彦、杉 俊隆、熊谷恭子、中西珠央、杉浦真弓。不育症患者における phosphatidylethanolamine (PE) 結合蛋白を認識する抗 PE 抗体の有用性の検討。第 53 回日本生殖医学会。神戸。2008。
- 42) 大林伸太郎、尾崎康彦、杉 俊隆、熊谷恭子、中西珠央、杉浦真弓。不育症患者における phosphatidylethanolamine (PE) 結合蛋白を認識する抗 PE 抗体の有用性の検討。第 23 回日本生殖免疫学会。富山。2008。
- 43) 杉 俊隆。不育症の診断と治療 up-to-date。第 443 回横浜産婦人科医会。2008
- 44) 杉 俊隆。カリクレイン-キニン系と血栓、流産。第 18 回日本産婦人科新生児血液学会。博多。2008。(シンポジウム)
- 45) 杉 俊隆。不育症診療 up-to-date。厚木市産婦人科医会。特別講演。2008。
- 46) 杉 俊隆。キニノーゲンを認識する抗 PE 抗体と angiogenesis について。第 23 回日本生殖免疫学会。富山。2008。(シンポジウム)
- 【2009年】
- 1) Saito S. : Regulatory T and NK cells during pregnancy. Mechanisms Associated with Reproductive Organs: Relevance in Fertility and in Sexually Transmitted Infections. International Congress of Bio-immunoregulatory, National Institute of Immunology, 2009, 2, 9-13, New Delhi, India.
- 2) Saito S. : Regulatory T and NK cells during pregnancy. IUPS Satellite Symposium on Endometrial Receptivity and Blastocyst Implantation, 2009, 7, 25, Kyoto.
- 3) Saito S. : Regulatory T and NK cells during pregnancy. 7<sup>th</sup> European Congress on Reproductive Immunology, 2009, 9, 17-20, Marathon, Greece. (Invited)
- 4) Nakashima A., Tatematsu M., Saito S.: The role of autophagy on the invasion of extravillous trophoblast. International Federation of Placenta Associations 2009, 2009, 10, 6-9, Adelaide, Australia.
- 5) Takahashi E, Kawaguchi R, Tanaka T, et al. Clinical analyses for transitional cases of infertility and recurrent pregnancy loss. 15th Conference of International Federation of Placental Association 2009.10 ( Adelaide, Australia).
- 6) Umehara N, Kawaguchi R, Tanaka T, et al. Therapeutic outcome in recurrent spontaneous abortions with antiphospholipid antibodies ~ The influence of titers, varieties, isotypes, positive numbers of antiphospholipid antibodies ~. 15th Conference of International

- Federation of Placental Association 2009.10 (Adelaide, Australia).
- 7) Yamada H. (2009) Antiphospholipid antibodies increase the risk of pregnancy-induced hypertension and adverse pregnancy outcomes. 3rd Society for Gynecologic Investigation International Summit 2009“Preeclampsia”. November 12-14, Sendai(シンポジウム)
  - 8) Ozawa N、et al:Cytogenetic investigation of miscarriage by DNA-based analysis combined with FISH analysis(25<sup>th</sup> Annual Meeting of the European Society of Human Reproduction and Embryology. 2009.7).
  - 9) Iwasawa Y, Kawana K, Fujii T, Nagamatsu T, Matsumoto J, Miura S, Yamashita T, Hyodo H, Kozuma S, Taketani Y: A possible pathogenic mechanism of recurrent miscarriage associated with  $\beta$  2 glycoprotein I-dependent antiphospholipid antibody through the function of CD1d. 29th Annual Meeting of The American Society for Reproductive Immunology, Orlando, FL, USA, 2009.6
  - 10) Iwasawa Y, Kawana K, Miura S, Fujii T: A novel pathogenic mechanism of recurrent miscarriage associated with  $\beta$  2glycoprotein I-dependent antiphospholipid antibody through CD1d on the trophoblast. 14th International Congress of Mucosal Immunology. Boston, MA, USA, 2009.7
  - 11) 立松美樹子, 中島彰俊, 齋藤滋:絨毛外栄養細胞の浸潤とオートファジーとの関連について. 第 61 回日本産婦人科学会, 2009, .4, 3-5, 京都.(ポスター発表)
  - 12) 伊藤実香, 中島彰俊, 伊奈志帆美, 米田哲, 塩崎有宏, 二階堂敏雄, 齋藤滋:好中球, 単球, T 細胞から産生される IL-17 は TNF $\alpha$  と相乗的に作用し羊膜上皮間葉系細胞からの IL-8 産生を亢進させる. 第 61 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2009, 4, 3, 京都.
  - 13) 島友子, 伊藤実香, 中島彰俊, 塩崎有宏, 齋藤滋:妊娠には胎児抗原特異的制御性 T 細胞が関与する. 第 61 回日本産婦人科学会学術講演会, 2009, 4, 4, 京都.(ポスター発表)
  - 14) 齋藤 滋:ワークショップ 12「不育症の新たな原因探索と治療」本邦における不育症のリスク因子とその予後に関する研究. 第 45 回日本周産期・新生児医学会, 2009, 7, 14, 名古屋.(招待講演)
  - 15) 中島彰俊, 伊藤実香, 米田哲, 塩崎有宏, 齋藤滋:「T 細胞・NK 細胞と妊娠維持」シンポジウム. Trophoblast に関わる免疫と臨床病態. 第 17 回日本胎盤学会学術集会, 2009, 10, 16-17, 東京.
  - 16) 中島彰俊, 立松美樹子, 齋藤滋:オートファジーは絨毛外栄養膜細胞浸潤に必須の機構である. 第 17 回日本胎盤学会学術集会, 2009, 10, 16-17, 東京.(学会賞)
  - 17) 島友子, 伊藤実香, 中島彰俊, 塩崎有宏, 齋藤滋:妊娠子宮には胎児抗原特異的制御性 T 細胞が増加する. 第 24 回日本生殖免疫学会, 学術集会, 2009, 11, 28, 東京.(学術奨励賞)
  - 18) 各務真紀, 小泉智恵, 笠原麻里, 小澤伸晃, 塚原優己, 久保隆彦, 左合治彦, 北川道弘, 名取道也, 丸山哲夫, 吉村泰典; 不安・抑うつ傾向の高い妊産婦の背景因子と支援の必要性について. 第 61 回 日本産科婦人科学会. 京都府京都市・国立京都国際会館. 2009 年 4 月 3 日-5 日
  - 19) 齋藤 滋, 田中忠夫, 藤井知行, 杉 俊隆, 丸山哲夫; 本邦における不育症のリスク因子とその予後に関する研究. 第 45 回 日本周産期・新生児医学会. 愛知県名古屋市・名古屋国際会議場. 2009 年 7 月 12 日-14 日
  - 20) 千代田達幸, 丸山哲夫, 小田英之, 各務真紀, 西川明花, 内田 浩, 田中 守, 青木大輔, 吉村泰典; 複数の合併症を発症した抗リン脂質抗体症候群妊婦の一例. 第 117 回日本産科婦人科学会関東連合地方部会. 東京都千代田区・都市センターホール. 2009 年 6 月 14 日
  - 21) 杉浦真弓, 青木耕治, 藤井知行, 藤田富雄, 川口里恵, 丸山哲夫, 小澤伸晃, 杉 俊隆, 竹下俊行, 齋藤 滋; 染色体転座をもつ反復流産患者の次回生児獲得率-他施設共同研究. 第 53 回 日本人類遺伝学会. 神奈川県横浜市・パシフィコ横浜会議センター. 2009 年 9 月 27 日-30 日
  - 22) 菊池由加子, 松田美和, 清水恵子, 小谷早葉子, 鎌田泰彦, 平松祐司, 中塚幹也. 不育症における先天性子宮形態異常と妊娠予後. 第 45 回日本周産期・新生児医学会 2009 年 7 月 12~14 日.
  - 23) 中野裕子, 菊池由加子, 佐々木愛子, 松田美和, 小谷早葉子, 清水恵子, 鎌田泰彦, 中塚幹也, 平松祐司. 抗凝固療法が奏功せず治療に苦慮

- した不育症の1例. 第 62 回日本産科婦人科学会中国四国合同地方部会 2009 年 9 月 26~27 日.
- 24) 江見弥生, 佐々木愛子, 松田美和, 秦久美子, 大谷友夏, 中塚幹也. 不育症当事者の思い—ピアサポートグループへの入会時アンケートより—. 第 50 回母性衛生学会 2009 年 9 月 27~28 日.
- 25) 難波沙由里, 矢富茜, 久下さくら, 三谷久美子, 奥村永里子, 江見弥生, 中塚幹也. 不育症へのパリン治療: 医療スタッフによる注射と自己注射との負担の比較. 第 50 回母性衛生学会 2009 年 9 月 27~28 日.
- 26) 矢富茜, 久下さくら, 三谷久美子, 奥村永里子, 難波沙由里, 米藤由貴, 江見弥生, 中塚幹也. 流産時の環境, 医療スタッフの対応とその後の不育症女性の心理. 第 50 回母性衛生学会 2009 年 9 月 27~28 日.
- 27) 後藤由佳, 奥田博之, 中塚幹也. 女性の心拍変動と神経症との関連. 第 62 回日本自律神経学会 2009 年 11 月 5~6 日.
- 28) 江見弥生, 莎如拉, 松田美和, 清水恵子, 小谷早葉子, 菊池由加子, 鎌田泰彦, 平松祐司, 中塚幹也. 不育症症例における初診時の顕在性不安の検討. 第 26 回岡山県母性衛生学会 2009 年 11 月 7 日.
- 29) 江見弥生, 莎如拉, 松田美和, 菊池由加子, 小谷早葉子, 清水恵子, 佐々木愛子, 鎌田泰彦, 中塚幹也. 不育症女性の抑うつ傾向と顕在性不安の評価. 第 54 回日本生殖医学会 2009 年 11 月 21~23 日.
- 30) 田淵和宏, 中塚幹也, 清水恵子, 莎如拉, 松田美和, 菊池由加子, 小谷早葉子, Chebib Chekir, 佐々木愛子, 鎌田泰彦, 平松祐司. 不育症症例における潜在性高プロラクチン血症の検討. 第 54 回日本生殖医学会 2009 年 11 月 21~23 日.
- 31) 岡崎倫子, 中塚幹也, 菊池由加子, 田淵和宏, 莎如拉, 松田美和, 小谷早葉子, 清水恵子, Chebib Chekir, 佐々木愛子, 鎌田泰彦, 平松祐司. 不育症症例におけるアッシャーマン症候群の検討. 第 54 回日本生殖医学会 2009 年 11 月 21~23 日.
- 32) 田淵和宏, 菊池由加子, 江見弥生, シェキル・シェビブ, サルラ, 小谷早葉子, 清水恵子, 松田美和, 佐々木愛子, 鎌田泰彦, 平松祐司, 中塚幹也. 不育症女性における免疫学的検査異常と気分プロフィール. 第 24 回日本生殖免疫学会 2009 年 11 月 27~28 日.
- 33) 高橋絵里, 川口里恵, 田中忠夫, 他. 不妊症と不育症, その移行症例の臨床的解析. 第 61 回 日本産科婦人科学会学術講演会 2009.04 (京都).
- 34) 山田秀人 (2009) 不育症の原因・治療と新たな展開. 北海道産婦人科医会ウエルカムガイダンス学術研修会(特別講演), 6 月 20 日, 札幌
- 35) 山田秀人 (2009) 抗リン脂質抗体は産科異常, 特に妊娠高血圧症候群と関連する. 第 45 回周産期・新生児医学会学術集会(ワークショップ 不育症の新たな原因探索と治療), 7 月 12-14 日, 名古屋
- 36) 山田秀人 (2009) 不育症の原因・治療と進展. 位育会臨床セミナー(特別講演), 8 月 23 日, 神戸
- 37) 山田秀人 (2009) 不育症医療とは. 尼崎市産婦人科医会学術講演会(特別講演), 11 月 28 日, 尼崎
- 38) 山田秀人 (2009) 自己免疫疾患合併妊娠の管理. 兵庫県周産期医療研修会(特別講演), 12 月 19 日, 神戸
- 39) 小澤伸晃, 他: 夫婦染色体異常と胎児染色体異常(第 45 回日本周産期・新生児医学会 2009.7).
- 40) 小澤伸晃, 他: アレイ CGH による分析(第 54 回日本人類遺伝学会 2009.9).
- 41) 岩澤有希, 川名敬, 藤井知行, 永松健, 松本順子, 三浦紫保, 吉田志朗, 兵藤博信, 山下隆博, 上妻志郎, 武谷雄二: 絨毛細胞上に存在するリン脂質抗原提示分子「CD1d」を介した、 $\beta$ 2glycoproteinI 依存性抗リン脂質抗体による新規流産メカニズムに関する検討. 第 61 回日本産科婦人科学会総会・学術講演会, 京都, 2009.4
- 42) 市川 剛、加藤恵理奈、中村晃和、浅沼亜紀、林 忠佑、久野宗一郎、千島史尚、鈴木真実、山本樹生 Trophoblast に関わる免疫と臨床病態抗 $\beta$ 2 グリコプロテイン I 抗体による絨毛障害メカニズム 第 17 回日本胎盤学会学術集会 2009年 10 月 東京
- 43) 市川 剛、中村晃和、東 裕福、浅沼亜紀、林 忠佑、久野宗一郎、村瀬隆行、千島史尚、鈴木真実、山本樹生 抗 $\beta$ 2-GPI 抗体が作用した絨毛癌細胞内でのシグナル伝達 第24回日本生殖免疫学会発表 2009年 11月 東京

- 44) 中村晃和、東 裕福、浅沼亜紀、林 忠佑、市川剛、久野宗一郎、村瀬隆行、千島史尚、鈴木真実、山本樹生 抗β2-GPI 抗体が作用した絨毛癌細胞での TLR の発現 第24回日本生殖免疫学会発表 2009年11月 東京
- 45) 杉 俊隆。抗体検査、ヘパリン療法。第117回日本産科婦人科学会関東連合地方部会。都市センターホテル。2009。(シンポジウム)
- 46) 杉 俊隆。不育症患者の血小板凝集能の検討ーレーザー散乱粒子計測法を用いた検討ー。第24回日本生殖免疫学会。京王プラザホテル。2009。
- 【2010年】
- 1) Saito S. Regulatory T and NK cells during pregnancy. 2010 Vietnam Immunology meeting, Hanoi, 2010, 3, 4-5. (Invited)
- 2) Saito S.: Regulatory T and NK cells during pregnancy. Lecture at Fudan University, 2010, 4, 8-11, Shanghai. (Invited)
- 3) Saito S.: Immunoregulation in human and mouse pregnancy. Immunologie van de voortplanting 2010, 2010, 5, 26, Netherlands. (Invited)
- 4) Saito S.: The role of regulatory NK cells and regulatory T cells in the maintenance of pregnancy. XI International Congress of Reproductive Immunology, 2010, 8, 15-19, Queensland, Australia. (Invited)
- 5) Saito S., Shima T., Nakashima A.: Beyond Th1/Th2 - Leucocyte polarization in pregnancy. 8th European Congress on Reproductive Immunology, 2010, 11, 11-14, Munich. (Invited)
- 6) Saito S.: Paternal antigen specific Treg cells proliferate in uterine draining lymph nodes before the implantation and in the uterus after the implantation. 2010.11.29-12.2, Shanghai (Invited)
- 7) [セミナー] Tetsuo Maruyama; Human uterine stem/progenitor cells. Program in Developmental biology, Baylor College of Medicine (BCM). October 21, 2010, Huston, USA
- 8) Tetsuo Maruyama, Kaoru Miyazaki, Hideyuki Oda, Sayaka Nishikawa-Uchida, Hiroshi Uchida, Yasunori Yoshimura; Significance of close and continuous monitoring of follicle development in the management of pregnancy-seeking patients with premature ovarian failure. American Society for Reproductive Medicine (ASRM). October 23-27, 2010, Denver, USA
- 9) [招請講演] Tetsuo Maruyama; Involvement of UDP-glucose and its receptor P2RY14 in mucosal innate immunity in the female reproductive tract. International Symposium for Immunology of Reproduction (ISIR). August 28-29, 2010, Osaka, Japan
- 10) Masanori Ono, Tetsuo Maruyama Takashi Kajitani, Hiroshi Uchida, Hideyuki Oda, Sayaka Nishikawa-Uchida, Kaoru Miyazaki, Takashi Nagashima, Hiroataka Masuda, Hideyuki Okano, Yumi Matsuzaki, Yasunori Yoshimura; Prospective isolation and functional analysis of stem/progenitor cells from the human uterine myometrium. 8th International Society for Stem Cell Reserch (ISSCR). June 16-19, 2010, San Francisco, CA USA
- 11) [招請講演] Tetsuo Maruyama; Somatic Stem Cells in the myometrium and its putative implication in myoma formation. 26th European Society of Human Reproduction & Embryology (ESHRE) June 27-30, 2010, Rome, Italy
- 12) Osamu Ishibashi, Shan-Shun Luo, Takashi Ohba, Hidetaka Katabuchi, Toshiyuki Takeshita, Toshihiro Takizawa: RNA duplexes elicit interferon-independent apoptosis of ovarian granulosa cells via RIG-I in cell type- and length-dependent manner. International Symposium for Immunology of Reproduction (ISIR-Osaka 2010) Osaka, Japan 2010.8
- 13) Yuri Mase, Osamu Ishibashi, Gen Ishikawa, Kazushige Kiguch, Hidetaka Katabuch, Takashi Ohba, Toshiyuki Takeshita, Toshihiro Takizawa: Identincation of functional microRNAs in human ovarian granulosa cells. International Symposium for Immunology of Reproduction (ISIR-Osaka 2010) Osaka, Japan 2010.8
- 14) Yasuyuki Negishi, Hidemi Takahashi, Toshiyuki Takeshita: Kinetics and internal balance of two distinct subsets of murine dendritic cells during pregnancy. International Symposium for Immunology of Reproduction (ISIR-Osaka 2010) Osaka, Japan 2010.8
- 15) Tomoko Ichikawa-Inagawa, Takashi Abe, Katsuya

- Mine, Yoshimitsu Kuwabara, Shigeo Akira, Toshiyuki Takeshita: Heparin Reduces Serum Granulysin Levels in Women with Recurrent Miscarriage Associated with Antiphospholipid Syndrome. 30<sup>th</sup> Annual Meeting of ASRI, Pittsburg, USA, 2010 May
- 16) Ozawa N, et al: The potential use of array-based comparative genomic hybridization for cytogenetic analysis of spontaneously expelled miscarriages (IFFS 20th World Congress on Fertility and Sterility 2010.9).
- 17) Tatsuo Yamamoto, Akikazu Nakamura, Aki Asanuma, Cyuyu Hayashi, Go Ichikawa, Souichirou Kuno, Takayuki Murase, Fumihisa Chisima, Manami Suzuki Effects of anti  $\beta$  2-GPI antibody on the expression of TLRmRNA and cytokine production in choriocarcinoma cell 30<sup>th</sup> Annual meeting of american society reproductive immunology 2010
- 18) Go Ichikawa, Erina Kato, Akikazu Nakamura, Aki Asanuma, Cyuyu Hayashi, Souichirou Kuno, Fumihisa Chisima, Manami Suzuki, Tatsuo Yamamoto Signal transduction in choriocarcinoma cell line caused by anti  $\beta$  2-GPI antibody binding 30<sup>th</sup> Annual meeting of of american society reproductive immunology 2010
- 19) Tatsuo Yamamoto, Aki Asanuma, Cyuyu Hayashi, Go Ichikawa, Fumihisa Chisima, Manami Suzuki, Effects of anti  $\beta$  2-GPI antibodies on the production of cytokines in choriocarcinoma (WoBo) cell 11<sup>th</sup> International Society Immunology reproduction Aug 2010
- 20) Fukui A, et al. The expression of natural cytotoxicity receptors on natural killer cells from midsecretory endometrium and aborted decidua. Reproductive Medicine and Endocrinology, 7 (4): 265, 2010 (20<sup>th</sup> World Congress of Fertility and Sterility)
- 21) Fukui A, et al. The expression of natural cytotoxicity receptors and the NK cell cytokines production in pregnant women with a history of recurrent pregnancy loss and pregnancy induced hypertension. Reproductive Medicine and Endocrinology, 7 (4): 265, 2010 (20<sup>th</sup> World Congress of Fertility and Sterility)
- 22) Fukui A. Uterine and circulating natural killer cells and their roles in women with recurrent pregnancy losses, implantation failures or preeclampsia. J Reprod Immunol, 86 (2): 87, 2010 (8<sup>th</sup> European Society for Reproductive Immunology)
- 23) Fukui A. NK cell and its role in reproduction. Am J Reprod Immunol, 64 Suppl1: 1, 2010 (2<sup>nd</sup> International Conference on reproductive Immunology)
- 24) 齋藤 滋, 中島彰俊: The role of autophagy on the invasion of extravillous trophoblast - 絨毛外栄養膜細胞浸潤におけるオートファジーの役割 -. 第 69 回日本癌学会学術集会, 2010, 9, 9, 23, 大阪.
- 25) 齋藤 滋: 不育症と免疫. 大阪府産婦人科懇話会. 2010, 9, 25, 大阪. (招待講演)
- 26) 齋藤 滋: 腫瘍免疫と妊娠免疫の類似性. 関西臨床腫瘍研究会, 2010, 10, 29, 京都. (招待講演)
- 27) 各務真紀, 小泉智恵, 三井真理, 丸山哲夫, 吉村泰典: 生殖補助医療による妊娠後, 嚴重な心身管理を要した摂食障害合併妊娠の一例. 第 55 回日本生殖医学会 (徳島県徳島市・あわぎんホール) 2010 年 11 月 11 日-12 日
- 28) 西川明花, 丸山哲夫, 宮崎 薫, 小田英之, 各務真紀, 内田 浩, 吉村泰典: 抗リン脂質抗体陽性不育症患者に対する抗血栓療法についての検討. 第 55 回日本生殖医学会 (徳島県徳島市・あわぎんホール) 2010 年 11 月 11 日-12 日
- 29) [ランチョンセミナー] 丸山哲夫: 難治性不妊への対応-早発卵巣不全-. 第 28 回日本受精着床学会総会 (神奈川県横浜市・パシフィコ横浜) 2010 年 7 月 28 日-29 日
- 30) [シンポジウム] 丸山哲夫: 産婦人科医療と再生医療ソース-ヒト子宮由来幹細胞-. 第 46 回日本周産期・新生児医学会 (兵庫県神戸市・神戸国際会議場) 2010 年 7 月 11 日-13 日
- 31) 清水恵子, 鎌田泰彦, 田淵和宏, 菊池由加子, 松田美和, シェキルシェビブ, 中塚幹也, 平松祐司. 子宮内膜症の診断における腹腔内貯留膿の有効性の検討. 第 31 回の日本エンドメトリオ-シス学会. 2010 年 16-17 日, 京都市.
- 32) 鎌田泰彦, 清水恵子, 田淵和宏, 菊池由加子, 松田美和, シェキルシェビブ, 中塚幹也, 平松祐司. 子宮内膜症病変における活性化血小板の

- 存在様式に関する検討. 第 31 回の日本エンドメ  
トリオーシス学会. 2010 年 16-17 日, 京都市.
- 33) 中塚幹也「将来の妊娠のために: 生殖機能温存  
の実際」岡山県不妊専門相談センター. 第 5 回  
不妊・不育とこころの研修会 2010 年 3 月 26 日.  
岡山市.
- 34) 内藤一郎, 大貫秀策, 中橋いずみ, 斎藤健司,  
稲垣純子, 百田龍輔, 中塚幹也, 二宮義文, 大  
塚愛二. マウス子宮基底膜を構成する IV 型コ  
ラーゲン $\alpha$ 鎖の免疫組織学的解析. 第 115 回日  
本解剖学会総会・全国学術集会. 2010 年 3 月  
28-30 日. 岩手県.
- 35) 後藤 由佳, 奥田 博之, 中塚 幹也. 更年期女  
性における心拍変動-エルゴメーター負荷を用  
いた短時間測定法による月経及びホルモン補  
充療法(HRT)との関連- . 第 63 回日本自律神  
経学会. 2010 年 10 月 22~23 日. 横浜.
- 36) 枝園忠彦, 中塚幹也, 西山慶子, 増田紘子, 野  
上智弘, 池田宏国, 平 成人, 土井原博義. 「生  
殖器癌における妊孕性治療」薬物療法を受ける  
乳癌患者に対する生殖機能相談支援システム  
の構築. 第 48 回癌治療学会 パネルディスカ  
ッション.
- 37) 秦久美子, 久世恵美子, 中塚幹也. 不育症女性  
の妊娠による不安と束縛感. 第 51 回日本母性  
衛生学会. 2010 年 11 月 5-6 日. 金沢.
- 38) 江見弥生, 中塚幹也. 不育症女性の背景と顕在  
性不安と抑うつ傾向の関連. 第 51 回日本母性  
衛生学会. 2010 年 11 月 5-6 日. 金沢.
- 39) 小寺菜見子, 塩田萌, 中塚幹也. 不妊症に対す  
る高校生と大学生の意識. 第 51 回日本母性衛  
生学会. 2010 年 11 月 5-6 日. 金沢.
- 40) 中村恵子, 中塚幹也. 不育症妊婦に対するヘパ  
リン自己注射指導における岡大式教育資料の  
有用性. 第 51 回日本母性衛生学会. 2010 年 11  
月 5-6 日. 金沢.
- 41) 根岸靖幸, 熊谷善博, 高橋秀実, 竹下俊行:マ  
ウス周産期における樹状細胞亜分画の変化.  
第 62 回日本産科婦人科学会総会・学術集会  
2010.4
- 42) 中井晶子, 三宅秀彦, 川端伊久乃, 桑原知仁,  
山岸絵美, 渡邊建一郎, 岩崎奈央, 林昌子, 大  
屋敦子, 中井章人, 竹下俊行:後期切迫流産症  
例における流産・早期早産に関与する因子の検  
討). 第 62 回日本産科婦人科学会総会・学術集  
会 2010.4
- 43) 市川智子, 里見操緒, 阿部崇, 峯克也, 明楽重  
夫, 竹下俊行:化学妊娠を反復する症例は不育  
症として扱うべきか? 第 62 回日本産科婦人科  
学会総会・学術集会 2010.4
- 44) 山田秀人(2010)自己免疫疾患合併妊娠の管理.  
三地区合同産婦人科医会研修会(特別講演),  
2 月 18 日, 神戸
- 45) 山田秀人(2010)習慣流産の免疫・遺伝学的背  
景と免疫グロブリン療法. 第 20 回生殖医学研究  
会(特別講演)4 月 2 日, 京都
- 46) 山田秀人(2010)自己免疫疾患合併妊娠の管理.  
神戸市医師会学術講演会(特別講演), 4 月 10  
日, 神戸
- 47) 山田秀人(2010)不育症の原因・治療と新たな展  
開. 兵庫県立淡路病院講演会(特別講演), 5 月  
27 日, 洲本
- 48) 山田秀人(2010)習慣流産の免疫・遺伝学的背  
景と免疫グロブリン療法. 第 25 回武庫川産婦人  
科セミナー(特別講演), 7 月 17 日, 西宮
- 49) 山田秀人(2010)難治性習慣流産に対する免疫  
グロブリン療法. 第 13 回日本 IVF 学会(教育講  
演), 9 月 19 日, 大阪
- 50) 山田秀人(2010)自己免疫疾患合併妊娠, 低置・  
前置胎盤の管理. 第 88 回北海道産科婦人科学  
会学術講演会(特別講演), 10 月 23 日, 札幌
- 51) 山田秀人(2010)自己免疫疾患合併妊娠の管理.  
加古川市民病院学術研究会(特別講演), 10 月  
29 日, 加古川
- 52) 小澤伸晃, 他:アレイ CGH 法を用いた流産原因  
の遺伝学的解析と不育症診療への応用(第 50  
回日本先天異常学会 2010.7).
- 53) 小澤伸晃, 他:流産症例における原因検索と  
次回妊娠予後(第 46 回日本周産期・新生児医  
学会 2010.7)
- 54) 中村晃和, 市川 剛, 千島史尚, 宮川康司, 鈴  
木真美, 山本樹生 抗 $\beta$ 2-GPI 抗体による絨毛  
癌細胞(WeWo)での TLRs mRNA の発現変化に  
ついて 第 18 回 胎盤学会 9 月 2010
- 55) 市川 剛, 加藤恵理奈, 中村晃和, 浅沼亜紀,  
林 忠佑, 久野宗一郎, 千島史尚, 山本樹生  $\beta$   
2-GPI を結合させた絨毛癌細胞(BeWo)内での  
抗 $\beta$ 2-GPI 抗体によるシグナル伝達機構の解  
明 第 62 回日産婦学会 東京 4 月 2010
- 56) 中村晃和, 市川 剛, 千島史尚, 宮川康司, 鈴  
木真美, 山本樹生 抗 $\beta$ 2-GPI 抗体による絨毛  
癌細胞(WeWo)での TLRs mRNA の発現変化に



- ついて 第62回日産婦学会 東京 4月 2010
- 57) 杉 俊隆。抗リン脂質抗体症候群。第 62 回日本産科婦人科学会。生涯研修プログラム。クリニカルカンファレンス4。不育症。東京国際フォーラム。2010。
- 58) 杉 俊隆。不育症診療 Up To Date。第24回横浜市西部地域産婦人科研究会。特別講演。2010。
- 59) 杉 俊隆。流産、習慣流産、不育症について。第18回横浜臨床医学会。2010。

#### 【2011年】

- 1) 不育症に対する抗血小板療法／抗凝固療法に関するアンケート調査 田畑知沙、筒井建紀、林正美、中村仁美、大八木知史、若林敦子、瀧内剛、正木秀武、香山晋輔、木村正  
第 136 日本生殖医学会関西支部集談会 平成 23 年 3 月 5 日 大阪

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
塩崎有宏, 酒井正利, 齋藤 滋,	Ⅱ. 産科(周産期) § 10. 妊娠. 1. 妊娠の生理.	産婦人科 学テキスト	倉智博久, 吉村泰典	中外医学 社	東京	2008	380-420
品川克至 中塚幹也 谷本光音	不妊について	特定非営 利活動法 人 全国骨 髄バンク推 進連絡協 議会 冊子 編集員会	全国協議会 ニュース臨時 増刊号「改訂 版」白血病と 言われたら —発症間も ない患者さん とご家族のた めに— 疾 患・治療編	特定非営 利活動法 人 全国骨髄 バンク推 進連絡協 議会	東京	2008	147-155
山田秀人	羊水過多・過少	山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編	今日の治療 指針2008版	医学書院	東京	2008	950-951
山田秀人	北海道トキソプラ ズマ研究会, 免疫 グロブリン胎児医 療研究会 胎児医療の現状と 将来—母子感染治 療と予防における 新たな試み, 周産 期診療プラクティス	松浦三男編	産婦人科治 療第96巻増 刊号	永井書店	大阪	2008	23-30
山田秀人	妊娠, 授乳「各論Ⅱ 多臓器, 組織にお けるホルモン相互 作用」ホルモンの 病態異常と臨床検 査.	藤枝憲二, 伊藤喜久編	臨床検査 2008年増刊 号52巻11号	医学書院	東京	2008	1351- 1354
山田秀人	血液型不適合妊 娠. 「各種病態で 必要な検査(合併 症妊娠で必要な母 体の検査)」。周産 期臨床検査のポイ ント産科編	周産期医学 編集委員会 編	周産期医学 第38巻増刊 号	東京医学 社	東京	2008	240-243

山田 俊, 山田秀人, 水上尚典	絨毛膜羊膜炎の 診断	岩下光利 監修	切迫早産の 診断と治療	メジカル ビュー社	東京	2008	98-109
杉 俊隆	不育症学級	杉 俊隆	不育症学級	金原出版	東京	2008	全65 ページ
中塚幹也	卵巣凍結保存の 境界線	篠原駿一 郎 石橋孝明	よく生き、よく 死ぬ、ための 生命倫理学	ナカニシ ヤ 出版	京都	2009	68-90
丸山哲夫	不育症 子宮奇形	川井弘光	生殖医療 ガイドブック 2010	金原出版 株式会社	東京	2010	281-285
杉 俊隆	不育症	石原 理、 柴原浩章、 三上幹男、 板倉敦夫	講義録 産科 婦人科学	メジカル ビュー社	東京	2010	244-245
杉 俊隆	抗リン脂質抗体	日本生殖 医学会	生殖医療ガ イドライン 2010	金原出版	東京	2010	278-280
中塚幹也	妊産褥婦の診察と 検査／妊娠の診 断と妊婦管理	石原理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫	講義録 産科婦人科 学	メジカル ビュー社	東京	2010	
中塚幹也	ジェンダーとセク シュアリティ	石原理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫	講義録 産科婦人科 学	メジカル ビュー社	東京	2010	

#### 雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Sugiura-Ogasawara M., Aoki K., Fujii T., Fujita T., Kawaguchi R., Maruyama T., Ozawa N., Sugi T., Takeshita T., Saito S.:	Subsequent pregnancy outcomes in recurrent miscarriage patients with a paternal or maternal carrier of a structural chromosome rearrangement.	J Hum Genet.	53(7)	622-628	2008
Nakashima A., Shiozaki A., Myojo S., Ito M., Tatematsu M., Sakai M., Takamori Y., Ogawa K., Nagata K., Saito S.	Granulysin produced by uterine natural killer cell induces apoptosis of extravillous trophoblast in spontaneous abortion.	Am J Pathol.	173	653-664	2008

Lin Y., Zhong Y., Shen W., Chen Y., Shi J., Di J., Zeng S., <u>Saito S.</u>	TSLP-induced placental DC activation and IL-10+ NK cell expansion: Comparative study based on BALB/cx C57BL/6 and NOD/SCID X C57 BL/6 pregnant models.	Clin Immunol	126	104-117	2008
<u>Saito S.</u> , Nakashima A., Myojo-Higuma S., Shiozaki A.	The balance between cytotoxic NK cells and regulatory NK cells in human pregnancy.	J Reprod Immunol	77(1)	14-22	2008
<u>Maruyama T.</u> , et al.	Molecular and cellular mechanisms for differentiation and regeneration in the uterine endometrium.	Endocrine Journal	55(5)	795-810	2008
Nagashima T, <u>Maruyama T.</u> , et al.	Activation of SRC kinase and phosphorylation of STAT5 are required for decidual transformation of human endometrial stromal cells.	Endocrinology	149(3)	1227-1234	2008
Ohta K, <u>Maruyama T.</u> , et al.	Glycodelin blocks progression to S phase and inhibits cell growth: a possible progesterone-induced regulator for endometrial epithelial cell growth.	Molecular Human Reproduction	14(1)	17-22	2008
Ozawa N*, <u>Maruyama T.</u> , et al.	Pregnancy outcomes of reciprocal translocation carriers who have a history of repeated pregnancy loss.	Fertil Steril	90(4)	1301-1304	2008
Lin Hao, Soichi Noguchi, Yasuhiko Kamada, Aiko Sasaki, Miwa Adachi, Keiko Shimizu, Yuji Hiramatsua, and <u>Mikiya Nakatsuka</u>	Adverse Effects of Advanced Glycation End Products on Embryonal Development	Acta Medica Okayama	62(2)	93-99	2008
Emi Y, Adachi M, Sasaki A, Nakamura Y, <u>Nakatsuka M.</u>	Increased arterial stiffness in female-to-male transsexuals treated with androgen.	J Obstet Gynaecol Res.	34(5)	890-7	2008
Ueda N., Kushi N, <u>Nakatsuka M.</u> , Ogawa T., Nakanishi Y., Shishido K., Awaya T.	Study of Views on Posthumous Reproduction, Focusing on its Relation with Views on Family and Religion in Modern Japan.	Acta Medica Okayama	62(5)	285-296	2008

Yuka Goto, <u>Mikiya Nakatsuka</u> , Hiroyuki Okuda	Effects of aging on heart rate variability and its relationship to psychosomatic complaints in women.	Journal of the Japan Society of Neurovegetative Research	45(6)	1-9	2008
<u>Kawaguchi R</u> , <u>Tanaka T</u> , et al.	Priming of peripheral monocytes with prolactin sensitizes IFN-gamma-mediated indolamine 2,3-dioxygenase expression without affecting IFN-gamma signaling.	J Reprod Immunol	77	117-125	2008
Itoh H, <u>Tanaka T</u> , et al.	A case-control study of the association between urinary cadmium concentration and endometriosis in infertile Japanese women.	Science of the Total Environment	402	171-175	2008
Akira S, Negishi Y, Abe T, Ichikawa M, <u>Takeshita T</u> .	Prophylactic intratubal injection of methotrexate after linear salpingostomy for prevention of persistent ectopic pregnancy.	J Obstet Gynaecol Res.	34(5)	885-9	2008
Yamada T, Matsuda T, Kudo M, Yamada T, Moriwaki M, Nishi S, Ebina Y, <u>Yamada H</u> , Kato H, Ito T, Wake N, Sakuragi N, Minakami H.	Complete hydatidiform mole with coexisting dichorionic diamniotic twins following testicular sperm extraction and intracytoplasmic sperm injection.	J Obstet Gynaecol Res	34(1)	121-124	2008
Morikawa M, Yamada T, Yamada T, Cho K, <u>Yamada H</u> , Sakuragi N, Minakami H.	Pregnancy outcome of women who developed proteinuria in the absence of hypertension after mid-gestation.	J Perinat Med	36(5)	419-424	2008
Morikawa M, Sago H, Yamada T, Hayashi S, Yamada T, Cho K, <u>Yamada H</u> , Kitagawa M, Minakami H.	Ileal atresia after fetoscopic laser photocoagulation for twin-to-twin transfusion syndrome—a case report.	Prenat Diagn	28(11)	1072-1074	2008
<u>Ozawa N</u> , et al	Pregnancy outcomes of reciprocal translocation carriers who have a history of repeated pregnancy loss.	Fertil Steril	90(4)	1301-4	2008

Tskitishvili , E., Komoto, Y., Kinugasa, Y., Kanagawa, T., Song, M., Mimura, K., Tomimatsu , T., Kimura ,T. Shimoya, K.	The human tumor-associated antigen RCAS1 in pregnancies complicated by pre-eclampsia.	Journal of Reproductive Immunology	77	100-108	2008
Khan, M.A.H., Ogita, K., Ferro, V.A., Kumasawa, K., Tsutsui ,T., Kimura, T.	Immunisation with a plasmid DNA vaccine encoding gonadotrophin releasing hormone (GnRH-1) and T-helper epitopes in saline suppresses rodent fertility.	Vaccine	26	1365-1374	2008
Yamamoto T, Murase T, Kuno S, Ichikawa G, Chisima F.	Leukocyte Subpopulation in Ascites of Women with Pre-Eclampsia.	<u>Am J Reprod Immunol.</u>	60(4)	318-324	2008
Yuzawa E, <u>Fujii S</u> , <u>Fukui A</u> , et al.	Retinoic acid-inducible gene-1 is induced by interferon-gamma and regulates CXCL11 expression in HeLa cells	Life Sci	82	670-5	2008
Fukuhara R, <u>Fujii S</u> , <u>Fukui S</u> , et al.	Erythrocytes counteract the negative effects of female ageing on mouse preimplantation embryo development and blastocyst formation	Hum Reprod	23	2080-5	2008
<u>Fujii S</u>	Biomarkers for embryo quality	J Mamm Ova Res	25	1	2008
Matsubayashi H, <u>Sugi T</u> , Uchida N, Suzuki T, Izumi S-I, Mikami M.	Decreased factor XII activity is associated with recurrent IVF-ET failure.	Am J Reprod Immunol	59	316-322	2008
Inomo A, <u>Sugi T</u> , Fujita Y, Matsubayashi H, Izumi S-I, Mikami M.	The antigenic binding sites of autoantibodies to factor XII in patients with recurrent pregnancy losses.	Thromb Haemost	99	316-323	2008
島 友子, 齋藤 滋	第3章 臓器特異的な樹状 細胞4. 生殖器における 樹 状細胞サブセット機能.	実験医学増刊	137	49-52	2008
長谷川徹, 齋藤 滋	I 病態と疾患 産科救急 流産・絨毛性疾患.	救急医学	32(9)	995-999	2008
中島彰俊, 伊藤実香, 齋藤 滋	妊婦の免疫学	臨床婦人科産科	62(6)	807-811	2008
齋藤 滋	特集 生殖医療の現状と問 題. 不育症の原因と治療	日本医師会雑誌	137	39-43	2008
齋藤 滋	生殖医療日本生殖免疫学会	産婦人科の実際	57(1)	1071-1075	2008

塩崎有宏 齋藤 滋	甲状腺疾患合併妊娠	日本産科婦人科学会雑誌	60	41-45	2008
塩崎有宏, 齋藤 滋	自己免疫疾患・膠原病合併妊娠	日本産科婦人科学会雑誌	60	45-49	2008
丸山哲夫, 他	婦人科疾患の診断・治療・管理3. 内分泌疾患 嚢胞性卵巣症候群.	日本産婦人科学会雑誌	60(11)	477-484	2008
丸山哲夫, 他	ハイボキシア生物学-酸素代謝からみる生命現象の方程式 胎盤形成と酸素分圧.	医学のあゆみ	225(13)	1323-1326	2008
丸山哲夫, 他	特集 思春期の諸問題 1. 排卵障害.	産科と婦人科	75(5)	529-536	2008
内田 浩, 荒瀬 透, 小野政徳, 各務真紀, 小田英之, 西川明花, 丸山哲夫, 他	月経異常を伴う内分泌疾患.	産婦人科治療別冊	96(2)	163-168	2008
丸山哲夫, 他	I. 生殖内分泌・不妊 2. 無月経.	産科と婦人科増刊号	75	8-14	2008
丸山哲夫, 他	子宮内膜脱落膜化の機序の解明-チロシンキナーゼSRCの役割と意義-.	産婦人科の実際	57(2)	193-198	2008
大谷友夏, 因來実里, 秦久美子, 佐藤久恵, 永井真寿美, 中塚幹也	流産・死産のグリーフケア: 母親と医療スタッフの捉え方	日本不妊カウンセリング学会誌	7(1)	57-58	2008
江見弥生, 藤原順子, 相澤亜紀, 中塚幹也	生殖医療を専門としたカウンセリングに対する認知度と要望	日本不妊カウンセリング学会誌	7(1)	68-69	2008
川上舞子, 藤井友紀, 田上志保, 溝口祥代, 吉田真奈美, 山下真由, 中塚幹也	凝固障害を伴う不育症患者のヘパリン注射に対する希望調査	岡山県母性衛生	24(1)	42-43	2008
後藤由佳, 山中祥栄, 莎如拉, 中塚幹也, 奥田博之	自律神経機能と卵巣機能との関連—心拍変動解析を用いて—	岡山県母性衛生	24(1)	48-49	2008
江見弥生, 中間みちよ, 藤原順子, 秦久美子, 佐藤久恵, 江國一二美, 中塚幹也	不妊症・不育症治療におけるカウンセリングへの認知度と要望	岡山県母性衛生	24(1)	61-62	2008
因來実里, 中塚幹也, 秦久美子, 佐藤久恵, 大谷友夏, 永井真寿美, 佐々木真美, 松井たみこ	死産後のグリーフケアの有用性	岡山県母性衛生	24(1)	69-70	2008
根岸靖幸, 稲垣真一郎, 熊谷善博, 竹下俊行, 高橋秀実	樹状細胞 樹状細胞サブセットとその機能 妊娠マウスにおける樹状細胞の解析	日本免疫学会総会・学術集会記録(0919-1984)	38	205	2008

稲川智子,阿部崇, 峯克也,桑原慶充, 里見操緒,富山僚子, 明楽重夫,竹下俊行	弓状子宮は不育症の原因 になりうるか?	日本生殖医学会 雑誌 (1881-0098)	53(4)	282	2008
杉浦真弓,川口里恵, 丸山哲夫,小澤伸晃, 杉俊隆,竹下俊行, 斎藤滋	染色体転座をもつ反復流産 患者の生児獲得率に関する 多施設共同研究	日本生殖医学会 雑誌(1881-0098)	53(4)	281	2008
竹下俊行	習慣流産と母性について考 える.	日産婦神奈川地 方部会会誌	45(1)	2-5	2008
稲川智子,竹下俊行	周産期臨床検査のポイント】産科編 不育症(習慣流 産)に対する検査	産婦人科の 実 際	57(12)	2013-2019	2008
古田 祐,白銀 透, 涌井之雄,山田秀人, 酒井慶一郎	双胎妊娠管理中に発症した 全身性エリテマトーデス.	北海道産科婦人 科学会会誌	52(1)	28-30	2008
山田秀人	ITPと妊娠中の問題点。「血 栓止血の臨床-研修医のた めに」	日本血栓止血学 会誌	19(2)	202-205	2008
山田秀人,西川 鑑, 山本智宏,水江由佳, 西平 順	妊婦の感染-胎児への影響 と対策 トキソプラズマ。「今 月の臨床 妊婦の感染症」	臨床婦人科産科	62(6)	839-843	2008
山田秀人	TORCH症候群 18.産科感 染症の管理と治療 D.産科 疾患の診断・治療・管理(研 修コーナー)	日産婦誌	60(6)	N132-136	2008
山田秀人	血小板異常と妊娠分娩-特 発性血小板減少性紫斑病, 血小板無力症。「周産期の 出血」徹底攻略.	周産期医学	38(7)	837-842	2008
山田秀人	免疫グロブリン胎児医療研 究会 先天性サイトメガロウ イルス感染症に対する免疫 グロブリン療法.	日産婦誌	60(9)	N288-295	2008
山田秀人	免疫グロブリン胎児医療研 究会先天性サイトメガロウ イルス感染症と免疫グロブリン 療法.	産婦人科治療	97(5)	485-493	2008
森川 守,山田 俊, 山田秀人,水上尚典	妊娠中の暫定的診断「妊娠 蛋白尿」の病的意義.	腎と透析	61	717-723	2008
杉 俊隆	不育症とその対策	産婦人科治療	96	550-554	2008
杉 俊隆	不育症	産科と婦人科	75	41-46	2008
Lin Y, Nakashima A, Shima T, Zhou X, Saito S.	Toll-like receptor signaling in uterine natural killer cells- role in embryonic loss.	J.Reprod Immunol.	83	95-100	2009



<u>Saito S.</u>	The Causes and Treatment of Recurrent Pregnancy Loss.	JMAJ	52(2)	97-102	2009
Lin Y., Ren L., Wang W., Di J., Zeng S., <u>Saito S.</u>	Effect of TLR3 and TLR7 activation in uterine NK cells from non-obese diabetic (NOD) mice.	J.Reprod Immunol.	82	12-23	2009
Lin Y., Wang W., Jin H., Zhong Y., Di J., Zeng S., <u>Saito S.</u>	Comparison of murine thymic stromal lymphopoietin- and polyinosinic polycytidylic acid-mediated placental dendritic cell activation.	J Reprod Immunol.	79	119-128	2009
Lin Y., Zhong Y., <u>Saito S.</u> , Chen Y., Shen W., Di J., Zeng S.	Characterization of natural killer cells in nonobese diabetic/severely compromised immunodeficient mice during pregnancy.	Fertil Steril.	91	2676-2686	2009
<u>Maruyama T</u>	Therapeutic Strategies for Implantation Failure due to Endometrial Dysfunction.	J Mamm. Ova Res	26	129-133	2009
Arase T, Uchida H, Kajitani T, Ono M, Tamaki K, Oda H, Nishikawa S, Kagami M, Nagashima T, Masuda H, Asada H, Yoshimura Y, <u>Maruyama T</u>	The UDP-glucose receptor P2RY14 triggers innate mucosal immunity in the female reproductive tract by inducing IL-8.	J Immunol	182	7074-7084	2009
Yuka Goto, Hiroyuki Okuda, <u>Mikiya Nakatsuka</u>	Autonomic response in women with psychosomatic symptoms: short-term frequency, domain analysis of heart rate variability in ergometer loading	Journal of the Japan Society of Neurovegetative Research	46(4)	341-348	2009
Okamoto S, <u>Tanaka T</u> , et al.	Mesenchymal to epithelial transition in the human ovarian surface epithelium focusing on inclusion cysts.	Oncol Rep	21	1209~1214	2009
Omi H, <u>Kawaguchi R</u> , <u>Tanaka T</u> , et al.	Establishment of an immortalized human extravillous trophoblast cell line by retroviral infection of E6/E7/hTERT and its transcriptional profile during hypoxia and reoxygenation.	Int J Mol Med	23	229~236	2009

Ishibashi O, Ishikawa G, Ishikawa T, Katayama A, Mishima T, Takizawa T, Shigihara T, Goto T, Izumi A, Ohkuchi A, Matsubara S, Takeshita T, Takizawa T.	Human villous trophoblasts express and secrete placenta-specific microRNAs into maternal circulation via exosomes	Biol Reprod.	81(4)	717-29	2009
Nishikawa A, Yamada H, Yamamoto T, Mizue Y, Akashi Y, Hayashi T, Nihei T, Nishiwaki M, Nishihira J.	A case of congenital toxoplasmosis whose mother demonstrated serum low IgG avidity and positive tests for multiplex-nested PCR in the amniotic fluid.	J Obstet Gynaecol Res	35(2)	372-378	2009
Yamada H, Atsumi T, Kobashi G, Ota C, Kato EH, Tsuruga N, Ohta K, Yasuda S, Koike T, Minakami H.	Antiphospholipid antibodies increase the risk of pregnancy-induced hypertension and adverse pregnancy outcomes.	J Reprod Immunol	79	188-195	2009
Sata F, Toya S, Yamada H, Suzuki K, Saijo Y, Yamazaki A, Minakami H, Kishi R.	Proinflammatory cytokine polymorphisms and the risk of preterm birth and low birth weight in a Japanese population.	Mol Hum Reprod	15(2)	121-130	2009
Shimada S, Yamada H, Hoshi N, Kobashi G, Okuyama K, Hanatani K, Fujimoto S.	Specific ultrasound findings associated with fetal chromosome abnormality.	Congenit Anom (Kyoto)	49(2)	61-65	2009
Shimada S, Takeda M, Nishihira J, Kaneuchi M, Sakuragi N, Minakami H, Yamada H.	A high dose of intravenous immunoglobulin increases CD94 expression on natural killer cells in women with recurrent spontaneous abortion.	Am J Reprod Immunol	62(5)	301-307	2009
Tomohiro Nakayama, Tatsuo Yamamoto	Comparison between essential hypertension and pregnancy-induced hypertension: a genetic perspective	Endocrine Journal,	56(8)	921-934	2009
Fukui A, Fujii S, et al.	Correlation between natural cytotoxicity receptors and intracellular cytokine expression of peripheral blood NK cells in women with recurrent pregnancy losses and implantation failures.	Am J Reprod Immunol	62	371-380	2009

Kimura H, Fukui A, Fujii S, et al.	Timed sexual intercourse facilitates the recruitment of uterine CD56(bright) natural killer cells in women with infertility.	Am J Reprod Immunol	62	118-124	2009
Sugi T	Autoantibody associated disruption of kallikrein-kinin system in patients with recurrent pregnancy losses.	Jpn J Obstet Gynecol Neonatal Hematol	18	67-76	2009
Sata F, Toya S, Yamada H, Suzuki K, Saijo Y, Yamazaki A, Minakami H, Kishi R	Proinflammatory cytokine polymorphisms and the risk of preterm birth and low birthweight in a Japanese population.	Mol Hum Reprod	15(2)	121-30	2009
齋藤 滋, 杉浦真弓, 田中忠夫, 藤井知行, 杉俊隆, 丸山哲夫, 竹下俊行, 山田秀人, 小澤伸晃, 木村正, 山本樹生, 藤井俊策, 中塚幹也, 下屋浩一 郎	ワークショップ12「不育症の新たな原因探索と治療」本邦における不育症のリスク因子とその予後に関する研究	日本周産期・新生児医学会雑誌	45	1144-1148	2009
長谷川徹, 齋藤滋	初期妊娠異常の診断と管理: 過大着床部・PSTT.	産科と婦人科	76	295-300	2009
齋藤滋	産婦人科 不育症の検査と治療 質疑応答.	日本医事新報	4443	82-83	2009
齋藤 滋	「炎症を中心とした免疫反応」周産期医療と inflammatory response.	周産期医学	39	675-679	2009
齋藤 滋, 杉浦真弓	ワークショップ12「不育症の新たな原因探索と治療」座長のまとめ.	日本周産期・新生児医学会雑誌.	45	1143	2009
矢富茜, 久下さくら, 三谷久美子, 奥村永里子, 難波沙由里, 米藤由貴, 江見弥生, 中塚幹也	流・死産後の環境と不育症女性の心理	岡山県母性衛生	25	50-51	2009
里見操緒, 竹下俊行	【生殖と免疫をめぐって】夫リンパ球免疫療法後の続発性不妊症	臨床免疫・アレルギー科 (1881-1930)	52(2)	176-179	2009
峯克也, 富山僚子, 桑原慶充, 稲川智子, 阿部崇, 西弥生, 明楽重夫, 成相孝一, 佐藤嘉兵, 竹下俊行	排卵誘発時の卵胞液中 hexanoyl-lysine濃度とART臨床背景の検討	日本受精着床学会雑誌 (0914-6776)	26(1)	114-117	2009

竹下俊行	【周産期医療とinflammatory response】 不育症	周産期医学 (0386-9881)	39(6)	719-722	2009
竹下俊行	不育症の診断と治療 子宮奇形の検査と治療	日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌 (0285-8096)	46(2)	132	2009
竹下俊行	不育症と母性 流産死産後の心理ケア	神奈川母性衛生学会誌 (1343-831X)	12(1)	73-74	2009
竹下俊行	【ここが聞きたい 不妊・不育症診療ベストプラクティス】 不育症の検査・診断 内分泌・代謝因子【内分泌・代謝異常】 不育症における甲状腺機能異常の病態について教えてください。本当に流産との関係はあるのでしょうか	臨床婦人科産科 (0386-9865)	63(4)	639-641	2009
竹下俊行	【ここが聞きたい 不妊・不育症診療ベストプラクティス】 不育症の検査・診断 内分泌・代謝因子【内分泌・代謝異常】 生殖内分泌異常,甲状腺機能異常,糖尿病の検査の実際について教えてください	臨床婦人科産科 (0386-9865)	63(4)	636-637	2009
山田秀人	抗リン脂質抗体は産科異常,特に妊娠高血圧症候群と関連する.	日本周産期・新生児医学会雑誌	45(4)	1149-1151	2009
天野真理, 山田秀人	不育症と先天性凝固異常.	日本血栓止血学会誌	20(5)	506-509	2009
小澤伸晃	【産婦人科専攻医の研修何を教える?何を学ぶ?(生殖医療編)】 不育症の管理(解説/特集)	産科と婦人科	76(6)	703-709	2009
市川 剛、山本樹生	抗β2グリコプロテインI抗体による絨毛障害	臨床免疫・アレルギー科	52(2)	188-189	2009
山本 樹生、青木 洋一、中村 晃和	Ⅲ 不育症の検査・診断 B免疫因子【抗リン脂質抗体】	臨床婦人科産科	63(4)	629-631	2009
藤井俊策、福井淳史 他	着床のメカニズム「NK細胞」	Hormone Frontier in Gynecology	16	60-67	2009
福井淳史、藤井俊策、他	受精卵着床不全におけるNK細胞の役割	臨床免疫・アレルギー科	52	158-165	2009

福井淳史,藤井俊策,他	着床不全症例におけるNK細胞上natural cytotoxicity receptors発現とNK細胞産生サイトカイン	日本受着会誌	26	341-347	2009
杉 俊隆	不育症と自己免疫性thrombophilia (抗リン脂質抗体、抗第XII因子抗体、抗キニノーゲン抗体)	血栓止血誌	20	510-518	2009
Saito S, Shima T, Nakashima A, Lin Y	Immune surveillance during pregnancy.	Ind. J. Physiol. Pharmacol.	54	60-63	2010
Saito S, Nakashima A, Shima T, Ito M.,	Th1/Th2/Th17 and regulatory T cell paradigm in pregnancy.	Am J Reprod Immunol.	63	601-610	2010
Shima T, Sasaki Y, Itoh M, Nakashima A, Ishii N, Sugamura K, Saito S.	Regulatory T cells are necessary for implantation and maintenance during early stage of pregnancy, but not necessary during late stage of pregnancy in allogeneic mice.	J. Reprod Immunol	85	121-129	2010
Nakashima A, Ito M, Shima T, Bac ND, Hidaka T, Saito S.	Accumulation of IL-17-positive cells in decidua of inevitable abortion cases.	Am J Reprod Immunol.	64	4-11	2010
Nakashima A, Ito M, Yoneda S, Shiozaki A, Hidaka T, Saito S.	Circulating and decidual Th17 cell levels in healthy pregnancy.	Am J Reprod. Immunol.	63	104-109	2010
Shiozaki A, Yoneda S., Soeda Y., Saito S.	Antenatal diagnosis of Breus' mole by ultrasonography.	Jpn. J. Obstet. Gynecol. Neonatal Hematol.	19	43-50	2010
Saito S.	Th17 cells and regulatory T cells: New light on pathophysiology of preeclampsia.	Immunology and Cell Biology. News and Commentary.	88	615-617	2010
Ito M., Nakashima A., Hidaka T., Okabe M., Bac N.D., Ina S., Yoneda S., Shiozaki A., Sumi S., Tsuneyama K., Nikaido T., Saito S.	A role for IL-17 in induction of an inflammation at fetomaternal interface in preterm labour.	J.Reprod Immunol.	84	75-85	2010

Lash G.E., Burton G.J. , Chamley, L.W. Clifton V.L. , Constancia M., Crocker I.P. , Dantzer V. , Desoye G. , Drewlo S., Hemmings D.G. , Hiendleder S. , Kalionis B. , Keelan J.A., Kudom Y., Lewis R.M., Manuelpillai U. , Murthi P. , Natale D., Pfarrer C., Robertson S., Saffery R. , <u>Saito S.</u> , Sferruzzi-Perri A., Sobrevia L. , Waddell B.J. , Roberts C.T.	IFPA Meeting 2009 Workshops Report. Placenta 31, Supplement A,	Trophoblast Research	24	S4-S20	2010
<u>Mikiya Nakatsuka</u>	Endocrine treatment of transsexuals: assessment of cardiovascular risk factors. Expert Rev.	Endocrinol. Metab.	5(3)	319-322	2010
Ono M, Kajitani T, Uchida H, Arase T, Oda H, Nishikawa-Uchida S, Masuda H, Nagashima T, Yoshimura Y <u>Maruyama T</u>	OCT4 expression in human uterine myometrial stem/progenitor cells.	Hum Reprod	25(8)	2059-2067	2010
<u>Maruyama T</u> , et al.	Human uterine stem/progenitor cells: their possible role in uterine physiology and pathology.	Reproduction	140	11-22	2010
Masuda H, Matsuzaki Y*, Hiratsu E, Ono M, Nagashima T, Kajitani T, Arase T, Oda H, Uchida H, Asada H, Ito M, Yoshimura Y, <u>Maruyama T</u> , et al.	Stem Cell-Like Properties of the Endometrial Side Population: Implication in Endometrial Regeneration.	PLoS ONE	5(4)	e10387	2010
<u>Maruyama T</u>	Stem/progenitor cells and the regeneration potentials the human uterus.	Reprod Med Biol	9	9-16	2010

Miyake H, Iwasaki N, Nakai A, Suzuki S, <u>Takeshita T.</u>	The influence of assisted reproductive technology on women with pregnancy-induced hypertension: a retrospective study at a Japanese Regional Perinatal Center	J Nippon Med Sch.	77(6)	312-7	2010
Kawabata I, Nagase A, Oya A, Hayashi M, Miyake H, Nakai A, <u>Takeshita T.</u>	Factors influencing the accuracy of digital examination for determining fetal head position during the first stage of labor.	J Nippon Med Sch.	77(6)	290-5	2010
Abe T, Amano I, Sawa R, Akira S, Nakai A, <u>Takeshita T.</u>	Recovery from peripartum cardiomyopathy in a Japanese woman after administration of bromocriptine as a new treatment option.	J Nippon Med Sch.	77(4)	226-30.	2010
Kurashina R, Shimada H, Matsushima T, Doi D, Asakura H, <u>Takeshita T</u>	Spontaneous uterine perforation due to clostridial gas gangrene associated with endometrial carcinoma	J Nippon Med Sch	77(3)	166-9	2010
Inde Y, Yamaguchi S, Kamoi S, <u>Takeshita T.</u>	Transition of cytomegalovirus seropositivity in Japanese puerperal women.	J Obstet Gynaecol Res	36(3)	488-94	2010
Hayashi M, Oya A, Miyake H, Nakai A, <u>Takeshita T.</u>	Effect of urinary trypsin inhibitor on preterm labor with high granulocyte elastase concentration in cervical secretions.	J Nippon Med Sch.	77(2)	80-5	2010
Yagi Y, Watanabe E, Watari E, Shinya E, Satomi M, <u>Takeshita T,</u> Takahashi H.	Inhibition of DC-SIGN-mediated transmission of human immunodeficiency virus type 1 by Toll-like receptor 3 signalling in breast milk macrophages.	Immunology	130(4)	597-607	2010
Takeuchi H, Takahashi M, Norose Y, <u>Takeshita T,</u> Fukunaga Y, Takahashi H.	Transformation of breast milk macrophages by HTLV-I: implications for HTLV-I transmission via breastfeeding	Biomed Res.	31(1)	53-61	2010

Yamada H, Atsumi T, Amengual O, Koike T, Furuta I, Ohta K, Kobashi G	Anti- $\beta$ 2 glycoprotein-I antibody increases the risk of pregnancy-induced hypertension: a case-control study.	J Reprod Immunol	84	95-99	2010
Mitsuhashi T, Warita K, Tabuchi Y, Takasaki I, Kondo T, Sugawara T, Hayashi F, Wang ZY, Matsumoto Y, Miki T, Takeuchi Y, Ebina Y, Yamada H, Sakuragi N, Yokoyama T, Nanmori T, Kitagawa H, Kant JA, Hoshi N	Global gene profiling and comprehensive bioinformatics analysis of a 46,XY female with pericentric inversion of the Y chromosome.	Congenit Anom (Kyoto)	50	40-51	2010
Mitsuhashi T, Warita K, Sugawara T, Tabuchi Y, Takasaki I, Kondo T, Hayashi F, Wang ZY, Matsumoto Y, Miki T, Takeuchi Y, Ebina Y, Yamada H, Sakuragi N, Yokoyama T, Nanmori T, Kitagawa H, Kant JA, Hoshi N	Epigenetic abnormality of SRY gene in the adult XY female with pericentric inversion of the Y chromosome.	Congenit Anom (Kyoto)	50	85-94	2010
Shimada S, Yamada H, Atsumi T, Yamada T, Sakuragi N, Minakami H	Intravenous immunoglobulin therapy for aspirin- heparinoid-resistant antiphospholipid syndrome.	Reprod Med Biol	9	217-221	2010
Yamada H, Ohara N, Amano M.	Current concepts on immunological etiologies in recurrent spontaneous abortion and intravenous immunoglobulin therapy.	Res. Adv. in Reproductive Immunology	1	1-21	2010
Tadashi Kimura, Kazuhide Ogita, Keiichi Kumasawa, Shinsuke Koyama, Tateki Tsutsui, and Hitomi Nakamura,	Two multipotential transcription factors, NF- $\kappa$ B and Stat-3, play critical and hierarchal roles for implantation	Indian J Physiol Pharmacol	54	27-32	2010
Lee SK, Fukui A, et al.	Fluctuation of Peripheral Blood T, B, and NK Cells during a Menstrual Cycle of Normal Healthy Women	J Immunol	185	756-762	2010



Obayashi S, Ozaki Y, Sugi T, Kitaori T, Katano K, Suzuki S, Sugiura-Ogasawara M.	Antiphosphatidylethanolamine antibodies might not be an independent risk factor for further miscarriage in patients suffering recurrent pregnancy loss.	J Reprod Immunol	85	186-192	2010
齋藤 滋, 中島彰俊, 島 友子	妊娠と免疫	周産期医学	40	1569-1573	2010
島 友子, 中島彰俊, 齋藤 滋	胎盤と免疫	周産期医学	40	1037-1042	2010
島 友子, 中島彰俊, 齋藤 滋	凝固系と炎症反応	産科と婦人科	77	956-962	2010
米田 哲, 齋藤 滋	流産. 消化器外科 外科当直医必携.	へるす出版	33	763-765	2010
齋藤 滋, 島 友子, 中島彰俊	着床、妊娠維持における制御性(regulatory)T細胞の重要性.	医学のあゆみ	233	129-134	2010
齋藤 滋	周産期 習慣流産に対する抗凝固療法—アスピリン単独療法か、アスピリン+ヘパリン併用療法か—	産婦人科の実際	59	299-302	2010
鮫島梓, 米田徳子, 齋藤滋	身体所見.	ペリネイタルケア	2373	27-35	2010
丸山哲夫	子宮における幹細胞.	産婦人科の実際	59(9)	1381-1387	2010
丸山哲夫	ヒト子宮における幹細胞.	日本生殖内分泌学会雑誌	15	25-27	2010
中村恵子 小野晴美 芳賀真子 中塚幹也	岡大式の教育資料を用いた不育症患者に対するヘパリン自己注射指導の有用性の検討	看護研究集録平成 21 年度		69-74	2010
吉田真奈美, 溝口祥代, 山下真由, 中塚幹也	妊婦における食の安全性, 葉酸, 水銀の摂取に関する認識	母性衛生	50(4)	568-574	2010
小寺菜見子, 大田有貴子, 塩田萌, 中塚幹也	不妊症に対する高校生と大学生の意識調査	岡山県母性衛生	26	43-44	2010
江見弥生, 莎如拉, 松田美和, 清水恵子, 小谷早葉子, 菊池由加子, 鎌田泰彦, 平松祐司, 中塚幹也	不育症症例における初診時の顕在性不安の検討	岡山県母性衛生	26	45-46	2010
中塚幹也	LPS, AGEs 刺激による一酸化窒素(NO)産生酵素誘導とプロテアーゼインヒビター	Surgery Frontier	17(3)	111-116	2010

江見弥生, 藤原順子, 中塚幹也	不育症女性の抑うつ傾向と 顕在性不安の検討:K6, MAS を使用して	日本不妊カウ セリング学会誌	9(1)	43-44	2010
石丸文穂, 藤原順子, 江見弥生, 中塚幹也	不妊専門相談センターによ る遠隔地の出張相談	日本不妊カウ セリング学会誌	9(1)	77-78	2010
杉 俊隆, 中塚幹也 (ライター 狩生聖子)	知って得する! 新「名医の 最新治療」Vol.156 不育症	週刊朝日	115(51)通 巻 5037号	104-106	2010
市川智子, 神戸沙織, 阿部崇, 富山僚子, 峯克也, 桑原慶充, 里見操緒, 澤倫太郎, 明楽重夫, 竹下俊行	アスピリン・ヘパリン療法不 成功不育症例の臨床遺伝学 的検討.	日本受精着床学 会雑誌 (0914-6776)	27(1)	260-263	2010
峯克也, 桑原慶充, 神戸沙織, 市川智子, 阿部崇, 富山僚子, 西弥生, 明楽重夫, 竹下俊行	アスピリン・ヘパリン療法中 に絨毛膜下血腫を呈し、アス ピリン中止後子宮内胎児死 亡に至った胎児腹壁破裂症 例.	日本受精着床学 会雑誌 (0914-6776)	27(1)	252-255	2010
中西一步, 阿部崇, 中尾仁彦, 大内望, 市川智子, 峯克也, 澤倫太郎, 磯崎太一, 明楽重夫, 竹下俊行	抗凝固療法を行ったにも関 わらず脳梗塞を合併した抗 リン脂質抗体陽性妊婦の一 例.	47) 日本産科 婦人科学会関東 連合地方部会誌 (0285-8096)	47(2)	222	2010
山田秀人	難治性習慣流産の免疫グロ ブリン療法.	週間日本医事新 報	4487	52-57	2010
山田秀人, 小橋 元, 渥美達也.	抗リン脂質抗体は産科異 常, 特に妊娠高血圧症候群 と関連する.	産婦人科の実際	59(5)	789-794	2010
天野真理子, 森實真由美, 山田秀人.	不育と遺伝因子	産婦人科の実際	59(12)	1969-1983	2010
山田秀人	不育症の病因と治療-難治 性習慣流産に対する免疫グ ロブリン療法-	北産婦医会報	123	2-11	2010
小澤伸晃, 他	高齢妊娠と流産リスク	産婦の実際	59(2)	167-172	2010
小澤伸晃, 他	産婦人科領域におけるアレ イCGH 3.産科領域のCGH 解析	産婦の実際	59(2)	237-243	2010
小澤伸晃, 他	流産胎児の遺伝学的解析	産婦の実際	59(12)	2009-2014	2010
山本樹生, 市川 剛, 千島史尚	抗 $\beta$ 2GPI 抗体とその作用 機序	医学のあゆみ	233(2)	163-167	2010
福井淳史, 藤井俊策, 他	黄体中期子宮内膜および流 産脱落膜Natural Killer細胞 におけるNatural Cytotoxicity Receptors発現	日本受精着床学 会雑誌	27(1)	369-374	2010
杉 俊隆	抗phosphatidylethanolamine 抗体と抗第XII因子抗体	医学のあゆみ	233	169-174	2010

杉 俊隆	習慣流産と血液凝固阻害薬	産科と婦人科	77	925-930	2010
杉 俊隆	抗リン脂質抗体症候群	日産婦誌	62	N150-154	2010
杉 俊隆	不育症とは	月刊地域保健	6	38-43	2010
Lin Y, Li C, Shan B, Wang W, Saito S, Xu J, Di J, Zhong Y, Li DJ.	Reduced stathmin-1 expression in NK cells associated with spontaneous abortion.	Am J Pathol.	178	506-514	2011
Hayashi K., Matsuda Y., Kawamichi Y., Shiozaki A., Saito S.	Smoking during pregnancy increases risks of various obstetric complications: A case-cohort study of the Japan Perinatal Registry Network Database.	J Epidemiol	21	61-66	2011
Yamashita K., Yoshioka Y., Higashisaka K., Mimura K., Morishita Y., Nozaki M., Yoshida T., Ogura T., Nabeshi H., Nagano K., Abe Y., Kamada H., Monobe Y., Imazawa T., Aoshima H., Shishido K., Kawai Y., Mayumi T., Tsunoda S., Itoh N., Yoshikawa T., Yanagihara I., Saito S., Tsutsumi Y.	Silica and titanium dioxide nanoparticles cause pregnancy complications in mice.	Nature Nanotechnology (Nat. Nanotechnol.)			in press
Saito S, Nakashima A, Shima T,	Future directions of studies for recurrent miscarriage associated with immune etiologies.	J Reprod Immunol.			in press.
Go Ichikawa, Tatsuo Yamamoto, Fumihisa Chishima , Akikazu Nakamura, Souichirou Kuno, Takayuki Murase, Manami Suzuki	Effects of anti $\beta$ 2-GPI antibody on PIGF ,VEGF and sVEGFR1 production from cultured choriocarcinoma cell line	J Obstet Gynecol Reseach			in press
杉 俊隆	抗リン脂質抗体症候群と静 脈血栓塞栓症	臨床婦人科産科			in press
杉 俊隆	抗リン脂質抗体症候群の診 療	産婦人科治療			in press